様式1

大学等名	神戸松蔭大学
プログラム名	データサイエンス・AI教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件　　学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

全学共通科目　情報系列 「データサイエンス・AIリテラシーⅠ」「データサイエンス・AIリテラシーⅡ」 各2単位合計4単位を修得することでプログラム修了とする。

必要最低科目数・単位数　2 科目　4 単位　履修必須の有無　令和6年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施

④ 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス・AIリテラシーⅠ	2	○	○	○					

⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス・AIリテラシーⅠ	2	○	○	○					

⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス・AIリテラシーⅠ	2	○	○	○					

⑦「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス・AIリテラシーⅠ	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス・AIリテラシーⅠ	2	○	○	○	○						
データサイエンス・AIリテラシーⅡ	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
データサイエンス・AIリテラシーⅡ	4-1統計および数理基礎		
データサイエンス・AIリテラシーⅡ	4-2アルゴリズム基礎		
データサイエンス・AIリテラシーⅡ	4-6画像認識		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
（1）現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット ・データ量の増加、計算機の処理能力の向上、AIの非連続的進化 ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会 ・複数技術を組み合わせたAIサービス ・人間の知的活動とAIの関係性 ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方 「データサイエンス・AIリテラシーⅠ」（第6回）
	1-6	・AI最新技術の活用例（深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AI） ・AI等を活用した新しいビジネスモデル（シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーション） 「データサイエンス・AIリテラシーⅠ」（第8回）
（2）「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	1-2 ・調査データ、実験データ、人の活動ログデータ、機械の稼働ログデータ ・1次データ、2次データ、データのメタ化 ・構造化データ、非構造化データ（文章、画像/動画、音声/音楽） ・データ作成（ビッグデータとアノテーション） ・データのオープン化（オープンデータ） 「データサイエンス・AIリテラシーⅠ」（第6回）
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり（生産、消費、文化活動） ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービス ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成 ・対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など生成AIの応用 「データサイエンス・AIリテラシーⅠ」（第7回）
（3）様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析：予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化 ・データ可視化：複合グラフ、2 軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化 ・非構造化データ処理：言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理 ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ ・認識技術、ルールベース、自動化技術 「データサイエンス・AIリテラシーⅠ」（第7回）
	1-5	・データサイエンスのサイクル（課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案） ・ビジネス、教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘスケア等におけるデータ・AI 利活用事例紹介 「データサイエンス・AIリテラシーⅠ」（第8回）

(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト ・データ倫理:データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護 ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス ・AIサービスの責任論 ・データガバナンス ・データ・AI活用における負の事例紹介 ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫) 「データサイエンス・AIリテラシーⅠ」(第14回)
	3-2	・情報セキュリティの 3 要素(機密性、完全性、可用性) ・匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証と、パスワード、アクセス制御、悪意のある情報搾取 ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介 ・サイバーセキュリティ 「データサイエンス・AIリテラシーⅠ」(第14回)
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数) ・観測データに含まれる誤差の扱い ・打ち切りや欠測脱落を含むデータ、層別の必要なデータ 「データサイエンス・AIリテラシーⅠ」(第11回) ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない) 「データサイエンス・AIリテラシーⅡ」(第4回) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い) 「データサイエンス・AIリテラシーⅡ」(第6回) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値 ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出) 「データサイエンス・AIリテラシーⅡ」(第7回) ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列 「データサイエンス・AIリテラシーⅡ」(第8回)
	2-2	・データの表現(棒グラフ、折れ線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図 「データサイエンス・AIリテラシーⅠ」(第12回) 「データサイエンス・AIリテラシーⅡ」(第10回) ・不適切なグラフ表現 (チャートジャンク、不必要な視覚的要素 ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など) 「データサイエンス・AIリテラシーⅡ」(第9回) ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど 「データサイエンス・AIリテラシーⅡ」(第10回) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト) 「データサイエンス・AIリテラシーⅡ」(第11回)
	2-3	・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法) 「データサイエンス・AIリテラシーⅠ」(第13回) 「データサイエンス・AIリテラシーⅡ」(第12回) ・データの集計(和、平均) ・データ解析ツール(スプレッドシート) ・表形式のデータ(csv) 「データサイエンス・AIリテラシーⅠ」(第13回) ・データの並べ替え、ランキング 「データサイエンス・AIリテラシーⅡ」(第12回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

【知識・理解】
・数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的な素養が主体的に身に付く。
・数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法が身に付く。
【汎用的技能】
・学習した知識・技能を元に、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意思でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できる。
・情報機器を使ってレポートや論文、資料を体裁良く作成することができる。
・情報機器を使って適切にデータの処理を行い、資料等を作成することができる。
・数理・データサイエンス・AIの基本的な活用を実践できる。
・情報機器を使って適切にデータの集計や処理、加工を行い、資料やレポートを作成することができる。

様式2

神戸松蔭大学

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度　令和6　年度（和暦）

②大学等全体の男女別学生数　男性 0 人　女性 186 人　（ 合計 186 人 ）

（令和6年5月1日時点）

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
文学部	297	110	590	40	33											40	7%
人間科学科	735	290	1,160	122	108											122	11%
教育学部	191	60	420	24	22											24	6%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合　計	1,223	460	2,170	186	163	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	186	9%

様式3

大学等名 神戸松蔭大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 （常勤） 84 人 （非常勤） 202 人

② プログラムの授業を教えている教員数 4 人

③ プログラムの運営責任者

（責任者名） 古家　伸一 （役職名） 情報教育センター所長

④ プログラムを改善・進化させるための体制（委員会・組織等）

FD・SD委員会

（責任者名） 橘　ゆかり （役職名） 副学長

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

FD・SD委員会規程

⑥ 体制の目的

(1) 委員会は、授業内容、授業方法を改善し、教育内容を向上させるための全学的取り組みを推進することを目的とする。
(2) 委員会は、教育活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員に必要な知識及び技能を習得させるための研修の機会を設けるなど、教職員への全学的な取り組みを行うことを目的とする。

⑦ 具体的な構成員

(1) 副学長　橘　ゆかり
(2) 学長補佐（教務担当）　教授 竹中　康之
(3) 学部長　教授 池谷　知子、教授 坂本　真佐哉、准教授 松岡　靖
(4) 研究科長　教授 大和田　攝子
(5) 各教育センター所長　教授 倉　真智子、准教授 F.Shiobara、准教授 古家　伸一
(6) 学長が任命する教員6～8名　教授 川中　紀子、准教授 田附　敏尚、講師 山本　竜也、
教授 花田　美和子、准教授 橋本　沙幸、講師 西川　良子、講師 中井　和弥、
准教授 大下　卓司
(7) 総務課の長　板井　真甲子
(8) 学長が任命する職員　高瀬　小織

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	9%	令和7年度予定	29%	令和8年度予定	54%
令和9年度予定	83%	令和10年度予定	100%	収容定員（名）	2,170

具体的な計画

当プログラムは令和6年度入学生から始めているため、令和5年度までに入学した学生には履修者がいません。当プログラムの修了要件となっている2科目は共に必修としており、令和6年度入学生は全員履修しています。令和7年度以降も同様ですので、令和7年度の履修率は29%、令和8年度の履修率は54%、令和9年度の履修率は83%となり、令和10年度には履修率100%となる予定です。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

当プログラムの修了要件となっている2科目は共に全学共通科目で必修としているため、令和6年度以降の入学生は学部・学科に関係なく全員が履修することになっています。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

当プログラムの修了要件となっている2科目は共に全学共通科目で必修としているため、令和6年度以降の入学生は全員が履修することになっています。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

修了要件となっている科目の講義では受講生が持参したパソコンを用いて具体的なデータによる実習や演習を通じて講義内容の理解を図っています。そのため、担当教員以外に情報教育センターのスタッフが授業補助に入ってパソコン操作に関するサポートを行っています。さらに、令和7年度からは本学にあるSA（Student Assistant）制度により、当プログラムの修了要件となっている2科目を修得した学生を授業補助に付けることで講義中のサポート体制を強化しています。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

講義で必要な資料やファイルは、本学が利用しているLMS（松蔭manaba）や担当教員のウェブサイトにより受講生に常時提供しています。また、担当教員と受講生は授業外の時間においても松蔭manabaを通じてリアルタイムではないものの個別指導を行ったり、受けたりすることができます。また、講義中に行ったパソコンの操作やパソコンを使った実習・演習の進め方等について分からない点がある場合は、情報教育センターにおいて受講生のパソコンを用いながら指導する対応を行っています。

様式4

大学等名 神戸松蔭大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

FD・SD委員会

（責任者名）橘　ゆかり　　（役職名）副学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	当プログラムの修得要件となっている「データサイエンス・AIリテラシーⅠ」と「データサイエンス・AIリテラシーⅡ」は、全学共通科目の情報系列1年次の必修科目のため履修率は共に100%である。 また、令和6年度の単位修得率は次の通りである。 ・「データサイエンス・AIリテラシーⅠ」：91.8% ・「データサイエンス・AIリテラシーⅡ」：94.4%
学修成果	配布資料を読む以外に受講生が興味を持てる事例をインターネット上で事前学習として各自に探させてみたが、期待通りにいかないこともあった。また、データリテラシーでは、身近なデータを用いて具体的にExcelを用いた処理やグラフ作成を行ったが、Excelの操作が不慣れなこともあり指示された処理やグラフ作成に時間が掛かった。そのため、得られた結果やグラフを受講生自身が考えたり、説明したりする時間的な余裕がなくなって、教員が解説して講義を終えることもあった。ただ、これらを繰り返すことで操作にも慣れ、体験を通して講義内容を学修できたと考えている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	FD・SD委員会が実施した「学生による授業評価アンケート」の結果では、「シラバスに示された到達目標を達成したか」の設問に対し、「強くそう思う」あるいは「そう思う」を選択した受講生の割合は「データサイエンス・AIリテラシーⅠ」が77.1%、「データサイエンス・AIリテラシーⅡ」が87.8%となっており、学生の内容の理解度は高かったと判断できる。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	FD・SD委員会が実施した「学生による授業評価アンケート」には該当する設問がないため後輩等他の学生への推奨度について具体的な値を把握できていないが、「この授業は総合的にみて良い授業であった」の設問に対し、「強くそう思う」あるいは「そう思う」を選択した受講生の割合は「データサイエンス・AIリテラシーⅠ」が88.6%、「データサイエンス・AIリテラシーⅡ」が92.0%であったことから、同程度の推奨度があるものと考えている。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	当プログラムは令和6年度入学生から始めているため、令和5年度までの入学生には履修者がいない。その結果、現時点での全学的な履修率は低くなっているが、当プログラムの修得要件となっている「データサイエンス・AIリテラシーⅠ」と「データサイエンス・AIリテラシーⅡ」は、全学共通教育科目の情報系列1年次の必修科目としているので、年次進行と共に履修率は上昇していき、令和10年度には100%に達する予定である。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは令和6年度入学生から履修を始めているため、まだ卒業生に修了者はいないが、本学が行っている卒業生アンケートや企業アンケートを使って把握する予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	現時点では産業界からの評価はまだ受けていない。今後、キャリア支援課と連携をして、本学が行っている企業アンケート等を使って意見を収集すると共に、教育プログラムの改善に活用していく予定である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	リテラシーレベルのモデルカリキュラムにある「導入」に示された内容を元に講義を行った。また、講義の事前準備として受講生が興味を持った事例をインターネット上で探し、講義においてそれをクラスで共有した。さらに授業後には「導入」部分の学修目標に対する簡単なレポートを提出させて理解度を確認した。実際のところ、事前準備の報告では同じ事例や的外れの事例もあって期待通りにはいかないところもあり、次年度以降はどうやって探すか、何を探すか等、もう少し基礎的なところから始める必要があると考えている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	講義内容の理解を深めるために受講生が持参したパソコンを使って実際にデータの処理やグラフ化の実習を行っているが、受講生のパソコン操作に関するスキルがあまり高くないこともあり実習が思い通りに進まないことが多かった。まずは、パソコンの操作スキルの底上げを行ってから具体的な実習に移るよう講義の内容や進め方の見直しを検討している。初年度ということもあり本学にあるSA（Student Assistant）制度を用いた授業補助が行えなかったが、次年度以降はこのプログラムを修了した学生をSAとして授業補助に付けることで講義中のサポート体制強化を考えている。

－　　－　　－

科目区分	情報系列						
科目名	データサイエンス・AIリテラシーI						
担当教員	奥村　紀之					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z41210
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・技能を学習する。
授業の概要	BYOD導入に伴い受講生が持参するパソコンの環境整備や本学のICT環境の説明ならびに利用を行い、新入生の本学でのBYOD受講体制を整える。また、これらを使ってレポートや論文、資料を作成するための操作スキルを身に付ける。さらに、大学生として身に付けておくべき素養となる数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・技能を学習する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的な素養が主体的に身に付いている。【知識・理解】 (2) 学習した知識・技能を元に、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意思でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになっている。【汎用的技能】 (3) 情報機器を使ってレポートや論文、資料を体裁良く作成することができる。【汎用的技能】 (4) 情報機器を使って適切にデータの処理を行い、資料等を作成することができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回 授業概要説明ならびに持参したノートパソコンに対しBYOD対応準備 (1) 第 2回 BYOD対応準備 (2) 第 3回 本学が提供するICT資源の説明と利用、著作権とクリエイティブ・コモンズ 第 4回 Word を使う (1) 第 5回 Word を使う (2) 第 6回 社会で起きている変化と社会で活用されているデータ 第 7回 データ・AIの活用領域と利活用のための技術 第 8回 データ・AI利活用の現場と最新動向 第 9回 Excel を使う (1) 第10回 Excel を使う (2) 第11回 データの種類、観測データに含まれる誤差の扱い 第12回 データの表現 第13回 データの集計 第14回 データ・AIを扱い、データを守る上での留意事項 第15回 まとめ ※全15回で[PC必携]のこと
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：指示された内容について調査したり、予習して理解したりする。＜2時間＞ 授業後学習：授業内に行った演習を最後まで行って完成させ、その結果を指示された方法で次回の講義までに提出する。＜2時間＞
授業方法	講義に演習を交えた形式で行う。＜BYOD対象科目＞ 講義内容の説明を受けつつ、受講生は持参したノートパソコンを使ってインターネット上の情報を検索したり、資料やデータを入手したりする。さらに、演習を通して具体的な操作やデータ処理等を行い、講義内容の理解を深める。
評価基準と評価方法	講義を通して作成・提出されたファイルの内容（完成度、理解度等）を評価する。到達目標(1)～(4)に関する確認。
履修上の注意	すべての授業回で受講生個人のノートパソコンを利用するので、必ず持参のうえ受講すること。止むを得ず授業を欠席した場合は、次回の授業までに授業用ウェブサイト上の説明や資料を使って欠席した授業の内容を必ず自習し、必要なファイルを作成・提出すること。
教科書	なし。授業用ウェブサイト上で必要な情報や資料を提供する。
参考書	なし。必要があれば、授業中および授業用ウェブサイト上で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	情報系列						
科目名	データサイエンス・AIリテラシーI						
担当教員	奥村　紀之					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z41210
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・技能を学習する。
授業の概要	BYOD導入に伴い受講生が持参するパソコンの環境整備や本学のICT環境の説明ならびに利用を行い、新入生の本学でのBYOD受講体制を整える。また、これらを使ってレポートや論文、資料を作成するための操作スキルを身に付ける。さらに、大学生として身に付けておくべき素養となる数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・技能を学習する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的な素養が主体的に身に付いている。【知識・理解】 (2) 学習した知識・技能を元に、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意思でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになっている。【汎用的技能】 (3) 情報機器を使ってレポートや論文、資料を体裁良く作成することができる。【汎用的技能】 (4) 情報機器を使って適切にデータの処理を行い、資料等を作成することができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回 授業概要説明ならびに持参したノートパソコンに対しBYOD対応準備 (1) 第 2回 BYOD対応準備 (2) 第 3回 本学が提供するICT資源の説明と利用、著作権とクリエイティブ・コモンズ 第 4回 Word を使う (1) 第 5回 Word を使う (2) 第 6回 社会で起きている変化と社会で活用されているデータ 第 7回 データ・AIの活用領域と利活用のための技術 第 8回 データ・AI利活用の現場と最新動向 第 9回 Excel を使う (1) 第10回 Excel を使う (2) 第11回 データの種類、観測データに含まれる誤差の扱い 第12回 データの表現 第13回 データの集計 第14回 データ・AIを扱い、データを守る上での留意事項 第15回 まとめ ※全15回で[PC必携]のこと
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：指示された内容について調査したり、予習して理解したりする。＜2時間＞ 授業後学習：授業内に行った演習を最後まで行って完成させ、その結果を指示された方法で次回の講義までに提出する。＜2時間＞
授業方法	講義に演習を交えた形式で行う。＜BYOD対象科目＞ 講義内容の説明を受けつつ、受講生は持参したノートパソコンを使ってインターネット上の情報を検索したり、資料やデータを入手したりする。さらに、演習を通して具体的な操作やデータ処理等を行い、講義内容の理解を深める。
評価基準と評価方法	講義を通して作成・提出されたファイルの内容（完成度、理解度等）を評価する。到達目標(1)～(4)に関する確認。
履修上の注意	すべての授業回で受講生個人のノートパソコンを利用するので、必ず持参のうえ受講すること。止むを得ず授業を欠席した場合は、次回の授業までに授業用ウェブサイト上の説明や資料を使って欠席した授業の内容を必ず自習し、必要なファイルを作成・提出すること。
教科書	なし。授業用ウェブサイト上で必要な情報や資料を提供する。
参考書	なし。必要があれば、授業中および授業用ウェブサイト上で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	情報系列						
科目名	データサイエンス・AIリテラシーI						
担当教員	奥村　紀之					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z41210
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・技能を学習する。
授業の概要	BYOD導入に伴い受講生が持参するパソコンの環境整備や本学のICT環境の説明ならびに利用を行い、新入生の本学でのBYOD受講体制を整える。また、これらを使ってレポートや論文、資料を作成するための操作スキルを身に付ける。さらに、大学生として身に付けておくべき素養となる数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・技能を学習する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的な素養が主体的に身に付いている。【知識・理解】 (2) 学習した知識・技能を元に、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意思でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになっている。【汎用的技能】 (3) 情報機器を使ってレポートや論文、資料を体裁良く作成することができる。【汎用的技能】 (4) 情報機器を使って適切にデータの処理を行い、資料等を作成することができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回 授業概要説明ならびに持参したノートパソコンに対しBYOD対応準備 (1) 第 2回 BYOD対応準備 (2) 第 3回 本学が提供するICT資源の説明と利用、著作権とクリエイティブ・コモンズ 第 4回 Word を使う (1) 第 5回 Word を使う (2) 第 6回 社会で起きている変化と社会で活用されているデータ 第 7回 データ・AIの活用領域と利活用のための技術 第 8回 データ・AI利活用の現場と最新動向 第 9回 Excel を使う (1) 第10回 Excel を使う (2) 第11回 データの種類、観測データに含まれる誤差の扱い 第12回 データの表現 第13回 データの集計 第14回 データ・AIを扱い、データを守る上での留意事項 第15回 まとめ ※全15回で[PC必携]のこと
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：指示された内容について調査したり、予習して理解したりする。＜2時間＞ 授業後学習：授業内に行った演習を最後まで行って完成させ、その結果を指示された方法で次回の講義までに提出する。＜2時間＞
授業方法	講義に演習を交えた形式で行う。＜BYOD対象科目＞ 講義内容の説明を受けつつ、受講生は持参したノートパソコンを使ってインターネット上の情報を検索したり、資料やデータを入手したりする。さらに、演習を通して具体的な操作やデータ処理等を行い、講義内容の理解を深める。
評価基準と評価方法	講義を通して作成・提出されたファイルの内容（完成度、理解度等）を評価する。到達目標(1)～(4)に関する確認。
履修上の注意	すべての授業回で受講生個人のノートパソコンを利用するので、必ず持参のうえ受講すること。止むを得ず授業を欠席した場合は、次回の授業までに授業用ウェブサイト上の説明や資料を使って欠席した授業の内容を必ず自習し、必要なファイルを作成・提出すること。
教科書	なし。授業用ウェブサイト上で必要な情報や資料を提供する。
参考書	なし。必要があれば、授業中および授業用ウェブサイト上で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	情報系列						
科目名	データサイエンス・AIリテラシーI						
担当教員	奥村　紀之					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z41210
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・技能を学習する。
授業の概要	BYOD導入に伴い受講生が持参するパソコンの環境整備や本学のICT環境の説明ならびに利用を行い、新入生の本学でのBYOD受講体制を整える。また、これらを使ってレポートや論文、資料を作成するための操作スキルを身に付ける。さらに、大学生として身に付けておくべき素養となる数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・技能を学習する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的な素養が主体的に身に付いている。【知識・理解】 (2) 学習した知識・技能を元に、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意思でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになっている。【汎用的技能】 (3) 情報機器を使ってレポートや論文、資料を体裁良く作成することができる。【汎用的技能】 (4) 情報機器を使って適切にデータの処理を行い、資料等を作成することができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回 授業概要説明ならびに持参したノートパソコンに対しBYOD対応準備 (1) 第 2回 BYOD対応準備 (2) 第 3回 本学が提供するICT資源の説明と利用、著作権とクリエイティブ・コモンズ 第 4回 Word を使う (1) 第 5回 Word を使う (2) 第 6回 社会で起きている変化と社会で活用されているデータ 第 7回 データ・AIの活用領域と利活用のための技術 第 8回 データ・AI利活用の現場と最新動向 第 9回 Excel を使う (1) 第10回 Excel を使う (2) 第11回 データの種類、観測データに含まれる誤差の扱い 第12回 データの表現 第13回 データの集計 第14回 データ・AIを扱い、データを守る上での留意事項 第15回 まとめ ※全15回で[PC必携]のこと
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：指示された内容について調査したり、予習して理解したりする。＜2時間＞ 授業後学習：授業内に行った演習を最後まで行って完成させ、その結果を指示された方法で次回の講義までに提出する。＜2時間＞
授業方法	講義に演習を交えた形式で行う。＜BYOD対象科目＞ 講義内容の説明を受けつつ、受講生は持参したノートパソコンを使ってインターネット上の情報を検索したり、資料やデータを入手したりする。さらに、演習を通して具体的な操作やデータ処理等を行い、講義内容の理解を深める。
評価基準と評価方法	講義を通して作成・提出されたファイルの内容（完成度、理解度等）を評価する。到達目標(1)～(4)に関する確認。
履修上の注意	すべての授業回で受講生個人のノートパソコンを利用するので、必ず持参のうえ受講すること。止むを得ず授業を欠席した場合は、次回の授業までに授業用ウェブサイト上の説明や資料を使って欠席した授業の内容を必ず自習し、必要なファイルを作成・提出すること。
教科書	なし。授業用ウェブサイト上で必要な情報や資料を提供する。
参考書	なし。必要があれば、授業中および授業用ウェブサイト上で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	情報系列						
科目名	データサイエンス・AIリテラシーI						
担当教員	片山　修					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z41210
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・技能を学習する。
授業の概要	BYOD導入に伴い受講生が持参するパソコンの環境整備や本学のICT環境の説明ならびに利用を行い、新入生の本学でのBYOD受講体制を整える。また、これらを使ってレポートや論文、資料を作成するための操作スキルを身に付ける。さらに、大学生として身に付けておくべき素養となる数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・技能を学習する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的な素養が主体的に身に付いている。【知識・理解】 (2) 学習した知識・技能を元に、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意思でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになっている。【汎用的技能】 (3) 情報機器を使ってレポートや論文、資料を体裁良く作成することができる。【汎用的技能】 (4) 情報機器を使って適切にデータの処理を行い、資料等を作成することができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回 授業概要説明ならびに持参したノートパソコンに対しBYOD対応準備 (1) 第 2回 BYOD対応準備 (2) 第 3回 本学が提供するICT資源の説明と利用、著作権とクリエイティブ・コモンズ 第 4回 Word を使う (1) 第 5回 Word を使う (2) 第 6回 社会で起きている変化と社会で活用されているデータ 第 7回 データ・AIの活用領域と利活用のための技術 第 8回 データ・AI利活用の現場と最新動向 第 9回 Excel を使う (1) 第10回 Excel を使う (2) 第11回 データの種類、観測データに含まれる誤差の扱い 第12回 データの表現 第13回 データの集計 第14回 データ・AIを扱い、データを守る上での留意事項 第15回 まとめ ※全15回で[PC必携]のこと
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：指示された内容について調査したり、予習して理解したりする。＜2時間＞ 授業後学習：授業内に行った演習を最後まで行って完成させ、その結果を指示された方法で次回の講義までに提出する。＜2時間＞
授業方法	講義に演習を交えた形式で行う。＜BYOD対象科目＞ 講義内容の説明を受けつつ、受講生は持参したノートパソコンを使ってインターネット上の情報を検索したり、資料やデータを入手したりする。さらに、演習を通して具体的な操作やデータ処理等を行い、講義内容の理解を深める。
評価基準と評価方法	講義を通して作成・提出されたファイルの内容（完成度、理解度等）を評価する。到達目標(1)～(4)に関する確認。
履修上の注意	すべての授業回で受講生個人のノートパソコンを利用するので、必ず持参のうえ受講すること。止むを得ず授業を欠席した場合は、次回の授業までに授業用ウェブサイト上の説明や資料を使って欠席した授業の内容を必ず自習し、必要なファイルを作成・提出すること。
教科書	なし。授業用ウェブサイト上で必要な情報や資料を提供する。
参考書	なし。必要があれば、授業中および授業用ウェブサイト上で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	情報系列						
科目名	データサイエンス・AIリテラシーI						
担当教員	片山　修					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z41210
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・技能を学習する。
授業の概要	BYOD導入に伴い受講生が持参するパソコンの環境整備や本学のICT環境の説明ならびに利用を行い、新入生の本学でのBYOD受講体制を整える。また、これらを使ってレポートや論文、資料を作成するための操作スキルを身に付ける。さらに、大学生として身に付けておくべき素養となる数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・技能を学習する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的な素養が主体的に身に付いている。【知識・理解】 (2) 学習した知識・技能を元に、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意思でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになっている。【汎用的技能】 (3) 情報機器を使ってレポートや論文、資料を体裁良く作成することができる。【汎用的技能】 (4) 情報機器を使って適切にデータの処理を行い、資料等を作成することができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回 授業概要説明ならびに持参したノートパソコンに対しBYOD対応準備 (1) 第 2回 BYOD対応準備 (2) 第 3回 本学が提供するICT資源の説明と利用、著作権とクリエイティブ・コモンズ 第 4回 Word を使う (1) 第 5回 Word を使う (2) 第 6回 社会で起きている変化と社会で活用されているデータ 第 7回 データ・AIの活用領域と利活用のための技術 第 8回 データ・AI利活用の現場と最新動向 第 9回 Excel を使う (1) 第10回 Excel を使う (2) 第11回 データの種類、観測データに含まれる誤差の扱い 第12回 データの表現 第13回 データの集計 第14回 データ・AIを扱い、データを守る上での留意事項 第15回 まとめ ※全15回で[PC必携]のこと
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：指示された内容について調査したり、予習して理解したりする。＜2時間＞ 授業後学習：授業内に行った演習を最後まで行って完成させ、その結果を指示された方法で次回の講義までに提出する。＜2時間＞
授業方法	講義に演習を交えた形式で行う。＜BYOD対象科目＞ 講義内容の説明を受けつつ、受講生は持参したノートパソコンを使ってインターネット上の情報を検索したり、資料やデータを入手したりする。さらに、演習を通して具体的な操作やデータ処理等を行い、講義内容の理解を深める。
評価基準と評価方法	講義を通して作成・提出されたファイルの内容（完成度、理解度等）を評価する。到達目標(1)～(4)に関する確認。
履修上の注意	すべての授業回で受講生個人のノートパソコンを利用するので、必ず持参のうえ受講すること。止むを得ず授業を欠席した場合は、次回の授業までに授業用ウェブサイト上の説明や資料を使って欠席した授業の内容を必ず自習し、必要なファイルを作成・提出すること。
教科書	なし。授業用ウェブサイト上で必要な情報や資料を提供する。
参考書	なし。必要があれば、授業中および授業用ウェブサイト上で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	情報系列						
科目名	データサイエンス・AIリテラシーI						
担当教員	住　淳一					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z41210
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・技能を学習する。
授業の概要	BYOD導入に伴い受講生が持参するパソコンの環境整備や本学のICT環境の説明ならびに利用を行い、新入生の本学でのBYOD受講体制を整える。また、これらを使ってレポートや論文、資料を作成するための操作スキルを身に付ける。さらに、大学生として身に付けておくべき素養となる数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・技能を学習する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的な素養が主体的に身に付いている。【知識・理解】 (2) 学習した知識・技能を元に、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意思でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになっている。【汎用的技能】 (3) 情報機器を使ってレポートや論文、資料を体裁良く作成することができる。【汎用的技能】 (4) 情報機器を使って適切にデータの処理を行い、資料等を作成することができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回 授業概要説明ならびに持参したノートパソコンに対しBYOD対応準備 (1) 第 2回 BYOD対応準備 (2) 第 3回 本学が提供するICT資源の説明と利用、著作権とクリエイティブ・コモンズ 第 4回 Word を使う (1) 第 5回 Word を使う (2) 第 6回 社会で起きている変化と社会で活用されているデータ 第 7回 データ・AIの活用領域と利活用のための技術 第 8回 データ・AI利活用の現場と最新動向 第 9回 Excel を使う (1) 第10回 Excel を使う (2) 第11回 データの種類、観測データに含まれる誤差の扱い 第12回 データの表現 第13回 データの集計 第14回 データ・AIを扱い、データを守る上での留意事項 第15回 まとめ ※全15回で[PC必携]のこと
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：指示された内容について調査したり、予習して理解したりする。＜2時間＞ 授業後学習：授業内に行った演習を最後まで行って完成させ、その結果を指示された方法で次回の講義までに提出する。＜2時間＞
授業方法	講義に演習を交えた形式で行う。＜BYOD対象科目＞ 講義内容の説明を受けつつ、受講生は持参したノートパソコンを使ってインターネット上の情報を検索したり、資料やデータを入手したりする。さらに、演習を通して具体的な操作やデータ処理等を行い、講義内容の理解を深める。
評価基準と評価方法	講義を通して作成・提出されたファイルの内容（完成度、理解度等）を評価する。到達目標(1)～(4)に関する確認。
履修上の注意	すべての授業回で受講生個人のノートパソコンを利用するので、必ず持参のうえ受講すること。止むを得ず授業を欠席した場合は、次回の授業までに授業用ウェブサイト上の説明や資料を使って欠席した授業の内容を必ず自習し、必要なファイルを作成・提出すること。
教科書	なし。授業用ウェブサイト上で必要な情報や資料を提供する。
参考書	なし。必要があれば、授業中および授業用ウェブサイト上で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	情報系列						
科目名	データサイエンス・AIリテラシーI						
担当教員	住　淳一					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z41210
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・技能を学習する。
授業の概要	BYOD導入に伴い受講生が持参するパソコンの環境整備や本学のICT環境の説明ならびに利用を行い、新入生の本学でのBYOD受講体制を整える。また、これらを使ってレポートや論文、資料を作成するための操作スキルを身に付ける。さらに、大学生として身に付けておくべき素養となる数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・技能を学習する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的な素養が主体的に身に付いている。【知識・理解】 (2) 学習した知識・技能を元に、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意思でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになっている。【汎用的技能】 (3) 情報機器を使ってレポートや論文、資料を体裁良く作成することができる。【汎用的技能】 (4) 情報機器を使って適切にデータの処理を行い、資料等を作成することができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回 授業概要説明ならびに持参したノートパソコンに対しBYOD対応準備 (1) 第 2回 BYOD対応準備 (2) 第 3回 本学が提供するICT資源の説明と利用、著作権とクリエイティブ・コモンズ 第 4回 Word を使う (1) 第 5回 Word を使う (2) 第 6回 社会で起きている変化と社会で活用されているデータ 第 7回 データ・AIの活用領域と利活用のための技術 第 8回 データ・AI利活用の現場と最新動向 第 9回 Excel を使う (1) 第10回 Excel を使う (2) 第11回 データの種類、観測データに含まれる誤差の扱い 第12回 データの表現 第13回 データの集計 第14回 データ・AIを扱い、データを守る上での留意事項 第15回 まとめ ※全15回で[PC必携]のこと
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：指示された内容について調査したり、予習して理解したりする。＜2時間＞ 授業後学習：授業内に行った演習を最後まで行って完成させ、その結果を指示された方法で次回の講義までに提出する。＜2時間＞
授業方法	講義に演習を交えた形式で行う。＜BYOD対象科目＞ 講義内容の説明を受けつつ、受講生は持参したノートパソコンを使ってインターネット上の情報を検索したり、資料やデータを入手したりする。さらに、演習を通して具体的な操作やデータ処理等を行い、講義内容の理解を深める。
評価基準と評価方法	講義を通して作成・提出されたファイルの内容（完成度、理解度等）を評価する。到達目標(1)～(4)に関する確認。
履修上の注意	すべての授業回で受講生個人のノートパソコンを利用するので、必ず持参のうえ受講すること。止むを得ず授業を欠席した場合は、次回の授業までに授業用ウェブサイト上の説明や資料を使って欠席した授業の内容を必ず自習し、必要なファイルを作成・提出すること。
教科書	なし。授業用ウェブサイト上で必要な情報や資料を提供する。
参考書	なし。必要があれば、授業中および授業用ウェブサイト上で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	情報系列						
科目名	データサイエンス・AIリテラシーI						
担当教員	古家　伸一					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z41210
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・技能を学習する。
授業の概要	BYOD導入に伴い受講生が持参するパソコンの環境整備や本学のICT環境の説明ならびに利用を行い、新入生の本学でのBYOD受講体制を整える。また、これらを使ってレポートや論文、資料を作成するための操作スキルを身に付ける。さらに、大学生として身に付けておくべき素養となる数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・技能を学習する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的な素養が主体的に身に付いている。【知識・理解】 (2) 学習した知識・技能を元に、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意思でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになっている。【汎用的技能】 (3) 情報機器を使ってレポートや論文、資料を体裁良く作成することができる。【汎用的技能】 (4) 情報機器を使って適切にデータの処理を行い、資料等を作成することができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回 授業概要説明ならびに持参したノートパソコンに対しBYOD対応準備 (1) 第 2回 BYOD対応準備 (2) 第 3回 本学が提供するICT資源の説明と利用、著作権とクリエイティブ・コモンズ 第 4回 Word を使う (1) 第 5回 Word を使う (2) 第 6回 社会で起きている変化と社会で活用されているデータ 第 7回 データ・AIの活用領域と利活用のための技術 第 8回 データ・AI利活用の現場と最新動向 第 9回 Excel を使う (1) 第10回 Excel を使う (2) 第11回 データの種類、観測データに含まれる誤差の扱い 第12回 データの表現 第13回 データの集計 第14回 データ・AIを扱い、データを守る上での留意事項 第15回 まとめ ※全15回で[PC必携]のこと
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：指示された内容について調査したり、予習して理解したりする。＜2時間＞ 授業後学習：授業内に行った演習を最後まで行って完成させ、その結果を指示された方法で次回の講義までに提出する。＜2時間＞
授業方法	講義に演習を交えた形式で行う。＜BYOD対象科目＞ 講義内容の説明を受けつつ、受講生は持参したノートパソコンを使ってインターネット上の情報を検索したり、資料やデータを入手したりする。さらに、演習を通して具体的な操作やデータ処理等を行い、講義内容の理解を深める。
評価基準と評価方法	講義を通して作成・提出されたファイルの内容（完成度、理解度等）を評価する。到達目標(1)～(4)に関する確認。
履修上の注意	すべての授業回で受講生個人のノートパソコンを利用するので、必ず持参のうえ受講すること。止むを得ず授業を欠席した場合は、次回の授業までに授業用ウェブサイト上の説明や資料を使って欠席した授業の内容を必ず自習し、必要なファイルを作成・提出すること。
教科書	なし。授業用ウェブサイト上で必要な情報や資料を提供する。
参考書	なし。必要があれば、授業中および授業用ウェブサイト上で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	情報系列						
科目名	データサイエンス・AIリテラシーI						
担当教員	古家　伸一					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z41210
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・技能を学習する。
授業の概要	BYOD導入に伴い受講生が持参するパソコンの環境整備や本学のICT環境の説明ならびに利用を行い、新入生の本学でのBYOD受講体制を整える。また、これらを使ってレポートや論文、資料を作成するための操作スキルを身に付ける。さらに、大学生として身に付けておくべき素養となる数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・技能を学習する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的な素養が主体的に身に付いている。【知識・理解】 (2) 学習した知識・技能を元に、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意思でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになっている。【汎用的技能】 (3) 情報機器を使ってレポートや論文、資料を体裁良く作成することができる。【汎用的技能】 (4) 情報機器を使って適切にデータの処理を行い、資料等を作成することができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回 授業概要説明ならびに持参したノートパソコンに対しBYOD対応準備 (1) 第 2回 BYOD対応準備 (2) 第 3回 本学が提供するICT資源の説明と利用、著作権とクリエイティブ・コモンズ 第 4回 Word を使う (1) 第 5回 Word を使う (2) 第 6回 社会で起きている変化と社会で活用されているデータ 第 7回 データ・AIの活用領域と利活用のための技術 第 8回 データ・AI利活用の現場と最新動向 第 9回 Excel を使う (1) 第10回 Excel を使う (2) 第11回 データの種類、観測データに含まれる誤差の扱い 第12回 データの表現 第13回 データの集計 第14回 データ・AIを扱い、データを守る上での留意事項 第15回 まとめ ※全15回で[PC必携]のこと
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：指示された内容について調査したり、予習して理解したりする。＜2時間＞ 授業後学習：授業内に行った演習を最後まで行って完成させ、その結果を指示された方法で次回の講義までに提出する。＜2時間＞
授業方法	講義に演習を交えた形式で行う。＜BYOD対象科目＞ 講義内容の説明を受けつつ、受講生は持参したノートパソコンを使ってインターネット上の情報を検索したり、資料やデータを入手したりする。さらに、演習を通して具体的な操作やデータ処理等を行い、講義内容の理解を深める。
評価基準と評価方法	講義を通して作成・提出されたファイルの内容（完成度、理解度等）を評価する。到達目標(1)～(4)に関する確認。
履修上の注意	すべての授業回で受講生個人のノートパソコンを利用するので、必ず持参のうえ受講すること。止むを得ず授業を欠席した場合は、次回の授業までに授業用ウェブサイト上の説明や資料を使って欠席した授業の内容を必ず自習し、必要なファイルを作成・提出すること。
教科書	なし。授業用ウェブサイト上で必要な情報や資料を提供する。
参考書	なし。必要があれば、授業中および授業用ウェブサイト上で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	情報系列						
科目名	データサイエンス・AIリテラシーI						
担当教員	古家　伸一					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z41210
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・技能を学習する。
授業の概要	BYOD導入に伴い受講生が持参するパソコンの環境整備や本学のICT環境の説明ならびに利用を行い、新入生の本学でのBYOD受講体制を整える。また、これらを使ってレポートや論文、資料を作成するための操作スキルを身に付ける。さらに、大学生として身に付けておくべき素養となる数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・技能を学習する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的な素養が主体的に身に付いている。【知識・理解】 (2) 学習した知識・技能を元に、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意思でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになっている。【汎用的技能】 (3) 情報機器を使ってレポートや論文、資料を体裁良く作成することができる。【汎用的技能】 (4) 情報機器を使って適切にデータの処理を行い、資料等を作成することができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回 授業概要説明ならびに持参したノートパソコンに対しBYOD対応準備 (1) 第 2回 BYOD対応準備 (2) 第 3回 本学が提供するICT資源の説明と利用、著作権とクリエイティブ・コモンズ 第 4回 Word を使う (1) 第 5回 Word を使う (2) 第 6回 社会で起きている変化と社会で活用されているデータ 第 7回 データ・AIの活用領域と利活用のための技術 第 8回 データ・AI利活用の現場と最新動向 第 9回 Excel を使う (1) 第10回 Excel を使う (2) 第11回 データの種類、観測データに含まれる誤差の扱い 第12回 データの表現 第13回 データの集計 第14回 データ・AIを扱い、データを守る上での留意事項 第15回 まとめ ※全15回で[PC必携]のこと
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：指示された内容について調査したり、予習して理解したりする。＜2時間＞ 授業後学習：授業内に行った演習を最後まで行って完成させ、その結果を指示された方法で次回の講義までに提出する。＜2時間＞
授業方法	講義に演習を交えた形式で行う。＜BYOD対象科目＞ 講義内容の説明を受けつつ、受講生は持参したノートパソコンを使ってインターネット上の情報を検索したり、資料やデータを入手したりする。さらに、演習を通して具体的な操作やデータ処理等を行い、講義内容の理解を深める。
評価基準と評価方法	講義を通して作成・提出されたファイルの内容（完成度、理解度等）を評価する。到達目標(1)～(4)に関する確認。
履修上の注意	すべての授業回で受講生個人のノートパソコンを利用するので、必ず持参のうえ受講すること。止むを得ず授業を欠席した場合は、次回の授業までに授業用ウェブサイト上の説明や資料を使って欠席した授業の内容を必ず自習し、必要なファイルを作成・提出すること。
教科書	なし。授業用ウェブサイト上で必要な情報や資料を提供する。
参考書	なし。必要があれば、授業中および授業用ウェブサイト上で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	情報系列						
科目名	データサイエンス・AIリテラシーI						
担当教員	古家　伸一					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z41210
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・技能を学習する。
授業の概要	BYOD導入に伴い受講生が持参するパソコンの環境整備や本学のICT環境の説明ならびに利用を行い、新入生の本学でのBYOD受講体制を整える。また、これらを使ってレポートや論文、資料を作成するための操作スキルを身に付ける。さらに、大学生として身に付けておくべき素養となる数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・技能を学習する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的な素養が主体的に身に付いている。【知識・理解】 (2) 学習した知識・技能を元に、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意思でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになっている。【汎用的技能】 (3) 情報機器を使ってレポートや論文、資料を体裁良く作成することができる。【汎用的技能】 (4) 情報機器を使って適切にデータの処理を行い、資料等を作成することができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回 授業概要説明ならびに持参したノートパソコンに対しBYOD対応準備 (1) 第 2回 BYOD対応準備 (2) 第 3回 本学が提供するICT資源の説明と利用、著作権とクリエイティブ・コモンズ 第 4回 Word を使う (1) 第 5回 Word を使う (2) 第 6回 社会で起きている変化と社会で活用されているデータ 第 7回 データ・AIの活用領域と利活用のための技術 第 8回 データ・AI利活用の現場と最新動向 第 9回 Excel を使う (1) 第10回 Excel を使う (2) 第11回 データの種類、観測データに含まれる誤差の扱い 第12回 データの表現 第13回 データの集計 第14回 データ・AIを扱い、データを守る上での留意事項 第15回 まとめ ※全15回で[PC必携]のこと
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：指示された内容について調査したり、予習して理解したりする。＜2時間＞ 授業後学習：授業内に行った演習を最後まで行って完成させ、その結果を指示された方法で次回の講義までに提出する。＜2時間＞
授業方法	講義に演習を交えた形式で行う。＜BYOD対象科目＞ 講義内容の説明を受けつつ、受講生は持参したノートパソコンを使ってインターネット上の情報を検索したり、資料やデータを入手したりする。さらに、演習を通して具体的な操作やデータ処理等を行い、講義内容の理解を深める。
評価基準と評価方法	講義を通して作成・提出されたファイルの内容（完成度、理解度等）を評価する。到達目標(1)～(4)に関する確認。
履修上の注意	すべての授業回で受講生個人のノートパソコンを利用するので、必ず持参のうえ受講すること。止むを得ず授業を欠席した場合は、次回の授業までに授業用ウェブサイト上の説明や資料を使って欠席した授業の内容を必ず自習し、必要なファイルを作成・提出すること。
教科書	なし。授業用ウェブサイト上で必要な情報や資料を提供する。
参考書	なし。必要があれば、授業中および授業用ウェブサイト上で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	情報系列						
科目名	データサイエンス・AIリテラシーII						
担当教員	奥村　紀之					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z41220
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法について学習・実践する。
授業の概要	「データを読み、説明し、扱う」データリテラシーに関する知識・技能を元に、数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法について学習し、実践する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法が身に付いている。【知識・理解】 (2) 数理・データサイエンス・AIの基本的な活用を実践できるようになっている。【汎用的技能】 (3) 情報機器を使って適切にデータの集計や処理、加工を行い、資料やレポートを作成することができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回 授業概要説明 第 2回 Excel を使う (1) 第 3回 Excel を使う (2) 第 4回 統計情報の正しい理解 第 5回 確率、順列、組み合わせ 第 6回 データの分布と代表値 第 7回 データのばらつき、母集団と標本抽出 第 8回 相関と因果、クロス集計表 第 9回 データの可視化 第10回 データの表現 第11回 データの比較 第12回 データの並び替え 第13回 アルゴリズムの表現、並び替え 第14回 画像解析の概要 第15回 まとめ ※全15回で[PC必携]のこと
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：指示された内容について調査したり、予習して理解したりする。＜2時間＞ 授業後学習：授業内に行った演習を最後まで行って完成させ、その結果を指示された方法で次回の講義までに提出する。＜2時間＞
授業方法	講義に演習を交えた形式で行う。＜BYOD対象科目＞ 講義内容の説明を受けつつ、受講生は持参したノートパソコンを使ってインターネット上の情報を検索したり、資料やデータを入手したりする。さらに、演習を通して具体的な操作やデータ処理等を行い、講義内容の理解を深める。
評価基準と評価方法	講義を通して作成・提出されたファイルの内容（完成度、理解度等）を評価する。到達目標(1)～(3)に関する確認。
履修上の注意	すべての授業回で受講生個人のノートパソコンを利用するので、必ず持参のうえ受講すること。止むを得ず授業を欠席した場合は、次回の授業までに授業用ウェブサイト上の説明や資料を使って欠席した授業の内容を必ず自習し、必要なファイルを作成・提出すること。
教科書	なし。授業用ウェブサイト上で必要な情報や資料を提供する。
参考書	なし。必要があれば、授業中および授業用ウェブサイト上で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	情報系列						
科目名	データサイエンス・AIリテラシーII						
担当教員	奥村　紀之					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z41220
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法について学習・実践する。
授業の概要	「データを読み、説明し、扱う」データリテラシーに関する知識・技能を元に、数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法について学習し、実践する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法が身に付いている。【知識・理解】 (2) 数理・データサイエンス・AIの基本的な活用を実践できるようになっている。【汎用的技能】 (3) 情報機器を使って適切にデータの集計や処理、加工を行い、資料やレポートを作成することができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回 授業概要説明 第 2回 Excel を使う (1) 第 3回 Excel を使う (2) 第 4回 統計情報の正しい理解 第 5回 確率、順列、組み合わせ 第 6回 データの分布と代表値 第 7回 データのばらつき、母集団と標本抽出 第 8回 相関と因果、クロス集計表 第 9回 データの可視化 第10回 データの表現 第11回 データの比較 第12回 データの並び替え 第13回 アルゴリズムの表現、並び替え 第14回 画像解析の概要 第15回 まとめ ※全15回で[PC必携]のこと
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：指示された内容について調査したり、予習して理解したりする。＜2時間＞ 授業後学習：授業内に行った演習を最後まで行って完成させ、その結果を指示された方法で次回の講義までに提出する。＜2時間＞
授業方法	講義に演習を交えた形式で行う。＜BYOD対象科目＞ 講義内容の説明を受けつつ、受講生は持参したノートパソコンを使ってインターネット上の情報を検索したり、資料やデータを入手したりする。さらに、演習を通して具体的な操作やデータ処理等を行い、講義内容の理解を深める。
評価基準と評価方法	講義を通して作成・提出されたファイルの内容（完成度、理解度等）を評価する。到達目標(1)～(3)に関する確認。
履修上の注意	すべての授業回で受講生個人のノートパソコンを利用するので、必ず持参のうえ受講すること。止むを得ず授業を欠席した場合は、次回の授業までに授業用ウェブサイト上の説明や資料を使って欠席した授業の内容を必ず自習し、必要なファイルを作成・提出すること。
教科書	なし。授業用ウェブサイト上で必要な情報や資料を提供する。
参考書	なし。必要があれば、授業中および授業用ウェブサイト上で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	情報系列						
科目名	データサイエンス・AIリテラシーII						
担当教員	奥村　紀之					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z41220
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法について学習・実践する。
授業の概要	「データを読み、説明し、扱う」データリテラシーに関する知識・技能を元に、数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法について学習し、実践する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法が身に付いている。【知識・理解】 (2) 数理・データサイエンス・AIの基本的な活用を実践できるようになっている。【汎用的技能】 (3) 情報機器を使って適切にデータの集計や処理、加工を行い、資料やレポートを作成することができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回 授業概要説明 第 2回 Excel を使う (1) 第 3回 Excel を使う (2) 第 4回 統計情報の正しい理解 第 5回 確率、順列、組み合わせ 第 6回 データの分布と代表値 第 7回 データのばらつき、母集団と標本抽出 第 8回 相関と因果、クロス集計表 第 9回 データの可視化 第10回 データの表現 第11回 データの比較 第12回 データの並び替え 第13回 アルゴリズムの表現、並び替え 第14回 画像解析の概要 第15回 まとめ ※全15回で[PC必携]のこと
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：指示された内容について調査したり、予習して理解したりする。＜2時間＞ 授業後学習：授業内に行った演習を最後まで行って完成させ、その結果を指示された方法で次回の講義までに提出する。＜2時間＞
授業方法	講義に演習を交えた形式で行う。＜BYOD対象科目＞ 講義内容の説明を受けつつ、受講生は持参したノートパソコンを使ってインターネット上の情報を検索したり、資料やデータを入手したりする。さらに、演習を通して具体的な操作やデータ処理等を行い、講義内容の理解を深める。
評価基準と評価方法	講義を通して作成・提出されたファイルの内容（完成度、理解度等）を評価する。到達目標(1)～(3)に関する確認。
履修上の注意	すべての授業回で受講生個人のノートパソコンを利用するので、必ず持参のうえ受講すること。止むを得ず授業を欠席した場合は、次回の授業までに授業用ウェブサイト上の説明や資料を使って欠席した授業の内容を必ず自習し、必要なファイルを作成・提出すること。
教科書	なし。授業用ウェブサイト上で必要な情報や資料を提供する。
参考書	なし。必要があれば、授業中および授業用ウェブサイト上で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	情報系列						
科目名	データサイエンス・AIリテラシーII						
担当教員	奥村　紀之					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z41220
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法について学習・実践する。
授業の概要	「データを読み、説明し、扱う」データリテラシーに関する知識・技能を元に、数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法について学習し、実践する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法が身に付いている。【知識・理解】 (2) 数理・データサイエンス・AIの基本的な活用を実践できるようになっている。【汎用的技能】 (3) 情報機器を使って適切にデータの集計や処理、加工を行い、資料やレポートを作成することができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回 授業概要説明 第 2回 Excel を使う (1) 第 3回 Excel を使う (2) 第 4回 統計情報の正しい理解 第 5回 確率、順列、組み合わせ 第 6回 データの分布と代表値 第 7回 データのばらつき、母集団と標本抽出 第 8回 相関と因果、クロス集計表 第 9回 データの可視化 第10回 データの表現 第11回 データの比較 第12回 データの並び替え 第13回 アルゴリズムの表現、並び替え 第14回 画像解析の概要 第15回 まとめ ※全15回で[PC必携]のこと
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：指示された内容について調査したり、予習して理解したりする。＜2時間＞ 授業後学習：授業内に行った演習を最後まで行って完成させ、その結果を指示された方法で次回の講義までに提出する。＜2時間＞
授業方法	講義に演習を交えた形式で行う。＜BYOD対象科目＞ 講義内容の説明を受けつつ、受講生は持参したノートパソコンを使ってインターネット上の情報を検索したり、資料やデータを入手したりする。さらに、演習を通して具体的な操作やデータ処理等を行い、講義内容の理解を深める。
評価基準と評価方法	講義を通して作成・提出されたファイルの内容（完成度、理解度等）を評価する。到達目標(1)～(3)に関する確認。
履修上の注意	すべての授業回で受講生個人のノートパソコンを利用するので、必ず持参のうえ受講すること。止むを得ず授業を欠席した場合は、次回の授業までに授業用ウェブサイト上の説明や資料を使って欠席した授業の内容を必ず自習し、必要なファイルを作成・提出すること。
教科書	なし。授業用ウェブサイト上で必要な情報や資料を提供する。
参考書	なし。必要があれば、授業中および授業用ウェブサイト上で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	情報系列						
科目名	データサイエンス・AIリテラシーII						
担当教員	片山　修					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z41220
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法について学習・実践する。
授業の概要	「データを読み、説明し、扱う」データリテラシーに関する知識・技能を元に、数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法について学習し、実践する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法が身に付いている。【知識・理解】 (2) 数理・データサイエンス・AIの基本的な活用を実践できるようになっている。【汎用的技能】 (3) 情報機器を使って適切にデータの集計や処理、加工を行い、資料やレポートを作成することができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回 授業概要説明 第 2回 Excel を使う (1) 第 3回 Excel を使う (2) 第 4回 統計情報の正しい理解 第 5回 確率、順列、組み合わせ 第 6回 データの分布と代表値 第 7回 データのばらつき、母集団と標本抽出 第 8回 相関と因果、クロス集計表 第 9回 データの可視化 第10回 データの表現 第11回 データの比較 第12回 データの並び替え 第13回 アルゴリズムの表現、並び替え 第14回 画像解析の概要 第15回 まとめ ※全15回で[PC必携]のこと
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：指示された内容について調査したり、予習して理解したりする。＜2時間＞ 授業後学習：授業内に行った演習を最後まで行って完成させ、その結果を指示された方法で次回の講義までに提出する。＜2時間＞
授業方法	講義に演習を交えた形式で行う。＜BYOD対象科目＞ 講義内容の説明を受けつつ、受講生は持参したノートパソコンを使ってインターネット上の情報を検索したり、資料やデータを入手したりする。さらに、演習を通して具体的な操作やデータ処理等を行い、講義内容の理解を深める。
評価基準と評価方法	講義を通して作成・提出されたファイルの内容（完成度、理解度等）を評価する。到達目標(1)～(3)に関する確認。
履修上の注意	すべての授業回で受講生個人のノートパソコンを利用するので、必ず持参のうえ受講すること。止むを得ず授業を欠席した場合は、次回の授業までに授業用ウェブサイト上の説明や資料を使って欠席した授業の内容を必ず自習し、必要なファイルを作成・提出すること。
教科書	なし。授業用ウェブサイト上で必要な情報や資料を提供する。
参考書	なし。必要があれば、授業中および授業用ウェブサイト上で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	情報系列						
科目名	データサイエンス・AIリテラシーII						
担当教員	片山　修					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z41220
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法について学習・実践する。
授業の概要	「データを読み、説明し、扱う」データリテラシーに関する知識・技能を元に、数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法について学習し、実践する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法が身に付いている。【知識・理解】 (2) 数理・データサイエンス・AIの基本的な活用を実践できるようになっている。【汎用的技能】 (3) 情報機器を使って適切にデータの集計や処理、加工を行い、資料やレポートを作成することができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回 授業概要説明 第 2回 Excel を使う (1) 第 3回 Excel を使う (2) 第 4回 統計情報の正しい理解 第 5回 確率、順列、組み合わせ 第 6回 データの分布と代表値 第 7回 データのばらつき、母集団と標本抽出 第 8回 相関と因果、クロス集計表 第 9回 データの可視化 第10回 データの表現 第11回 データの比較 第12回 データの並び替え 第13回 アルゴリズムの表現、並び替え 第14回 画像解析の概要 第15回 まとめ ※全15回で[PC必携]のこと
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：指示された内容について調査したり、予習して理解したりする。＜2時間＞ 授業後学習：授業内に行った演習を最後まで行って完成させ、その結果を指示された方法で次回の講義までに提出する。＜2時間＞
授業方法	講義に演習を交えた形式で行う。＜BYOD対象科目＞ 講義内容の説明を受けつつ、受講生は持参したノートパソコンを使ってインターネット上の情報を検索したり、資料やデータを入手したりする。さらに、演習を通して具体的な操作やデータ処理等を行い、講義内容の理解を深める。
評価基準と評価方法	講義を通して作成・提出されたファイルの内容（完成度、理解度等）を評価する。到達目標(1)～(3)に関する確認。
履修上の注意	すべての授業回で受講生個人のノートパソコンを利用するので、必ず持参のうえ受講すること。止むを得ず授業を欠席した場合は、次回の授業までに授業用ウェブサイト上の説明や資料を使って欠席した授業の内容を必ず自習し、必要なファイルを作成・提出すること。
教科書	なし。授業用ウェブサイト上で必要な情報や資料を提供する。
参考書	なし。必要があれば、授業中および授業用ウェブサイト上で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	情報系列						
科目名	データサイエンス・AIリテラシーII						
担当教員	住　淳一					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z41220
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法について学習・実践する。
授業の概要	「データを読み、説明し、扱う」データリテラシーに関する知識・技能を元に、数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法について学習し、実践する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法が身に付いている。【知識・理解】 (2) 数理・データサイエンス・AIの基本的な活用を実践できるようになっている。【汎用的技能】 (3) 情報機器を使って適切にデータの集計や処理、加工を行い、資料やレポートを作成することができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回 授業概要説明 第 2回 Excel を使う (1) 第 3回 Excel を使う (2) 第 4回 統計情報の正しい理解 第 5回 確率、順列、組み合わせ 第 6回 データの分布と代表値 第 7回 データのばらつき、母集団と標本抽出 第 8回 相関と因果、クロス集計表 第 9回 データの可視化 第10回 データの表現 第11回 データの比較 第12回 データの並び替え 第13回 アルゴリズムの表現、並び替え 第14回 画像解析の概要 第15回 まとめ ※全15回で[PC必携]のこと
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：指示された内容について調査したり、予習して理解したりする。＜2時間＞ 授業後学習：授業内に行った演習を最後まで行って完成させ、その結果を指示された方法で次回の講義までに提出する。＜2時間＞
授業方法	講義に演習を交えた形式で行う。＜BYOD対象科目＞ 講義内容の説明を受けつつ、受講生は持参したノートパソコンを使ってインターネット上の情報を検索したり、資料やデータを入手したりする。さらに、演習を通して具体的な操作やデータ処理等を行い、講義内容の理解を深める。
評価基準と評価方法	講義を通して作成・提出されたファイルの内容（完成度、理解度等）を評価する。到達目標(1)～(3)に関する確認。
履修上の注意	すべての授業回で受講生個人のノートパソコンを利用するので、必ず持参のうえ受講すること。止むを得ず授業を欠席した場合は、次回の授業までに授業用ウェブサイト上の説明や資料を使って欠席した授業の内容を必ず自習し、必要なファイルを作成・提出すること。
教科書	なし。授業用ウェブサイト上で必要な情報や資料を提供する。
参考書	なし。必要があれば、授業中および授業用ウェブサイト上で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	情報系列						
科目名	データサイエンス・AIリテラシーII						
担当教員	住　淳一					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z41220
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法について学習・実践する。
授業の概要	「データを読み、説明し、扱う」データリテラシーに関する知識・技能を元に、数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法について学習し、実践する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法が身に付いている。【知識・理解】 (2) 数理・データサイエンス・AIの基本的な活用を実践できるようになっている。【汎用的技能】 (3) 情報機器を使って適切にデータの集計や処理、加工を行い、資料やレポートを作成することができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回 授業概要説明 第 2回 Excel を使う (1) 第 3回 Excel を使う (2) 第 4回 統計情報の正しい理解 第 5回 確率、順列、組み合わせ 第 6回 データの分布と代表値 第 7回 データのばらつき、母集団と標本抽出 第 8回 相関と因果、クロス集計表 第 9回 データの可視化 第10回 データの表現 第11回 データの比較 第12回 データの並び替え 第13回 アルゴリズムの表現、並び替え 第14回 画像解析の概要 第15回 まとめ ※全15回で[PC必携]のこと
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：指示された内容について調査したり、予習して理解したりする。＜2時間＞ 授業後学習：授業内に行った演習を最後まで行って完成させ、その結果を指示された方法で次回の講義までに提出する。＜2時間＞
授業方法	講義に演習を交えた形式で行う。＜BYOD対象科目＞ 講義内容の説明を受けつつ、受講生は持参したノートパソコンを使ってインターネット上の情報を検索したり、資料やデータを入手したりする。さらに、演習を通して具体的な操作やデータ処理等を行い、講義内容の理解を深める。
評価基準と評価方法	講義を通して作成・提出されたファイルの内容（完成度、理解度等）を評価する。到達目標(1)～(3)に関する確認。
履修上の注意	すべての授業回で受講生個人のノートパソコンを利用するので、必ず持参のうえ受講すること。止むを得ず授業を欠席した場合は、次回の授業までに授業用ウェブサイト上の説明や資料を使って欠席した授業の内容を必ず自習し、必要なファイルを作成・提出すること。
教科書	なし。授業用ウェブサイト上で必要な情報や資料を提供する。
参考書	なし。必要があれば、授業中および授業用ウェブサイト上で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	情報系列						
科目名	データサイエンス・AIリテラシーII						
担当教員	古家　伸一					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z41220
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法について学習・実践する。
授業の概要	「データを読み、説明し、扱う」データリテラシーに関する知識・技能を元に、数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法について学習し、実践する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法が身に付いている。【知識・理解】 (2) 数理・データサイエンス・AIの基本的な活用を実践できるようになっている。【汎用的技能】 (3) 情報機器を使って適切にデータの集計や処理、加工を行い、資料やレポートを作成することができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回 授業概要説明 第 2回 Excel を使う (1) 第 3回 Excel を使う (2) 第 4回 統計情報の正しい理解 第 5回 確率、順列、組み合わせ 第 6回 データの分布と代表値 第 7回 データのばらつき、母集団と標本抽出 第 8回 相関と因果、クロス集計表 第 9回 データの可視化 第10回 データの表現 第11回 データの比較 第12回 データの並び替え 第13回 アルゴリズムの表現、並び替え 第14回 画像解析の概要 第15回 まとめ ※全15回で[PC必携]のこと
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：指示された内容について調査したり、予習して理解したりする。＜2時間＞ 授業後学習：授業内に行った演習を最後まで行って完成させ、その結果を指示された方法で次回の講義までに提出する。＜2時間＞
授業方法	講義に演習を交えた形式で行う。＜BYOD対象科目＞ 講義内容の説明を受けつつ、受講生は持参したノートパソコンを使ってインターネット上の情報を検索したり、資料やデータを入手したりする。さらに、演習を通して具体的な操作やデータ処理等を行い、講義内容の理解を深める。
評価基準と評価方法	講義を通して作成・提出されたファイルの内容（完成度、理解度等）を評価する。到達目標(1)～(3)に関する確認。
履修上の注意	すべての授業回で受講生個人のノートパソコンを利用するので、必ず持参のうえ受講すること。止むを得ず授業を欠席した場合は、次回の授業までに授業用ウェブサイト上の説明や資料を使って欠席した授業の内容を必ず自習し、必要なファイルを作成・提出すること。
教科書	なし。授業用ウェブサイト上で必要な情報や資料を提供する。
参考書	なし。必要があれば、授業中および授業用ウェブサイト上で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	情報系列						
科目名	データサイエンス・AIリテラシーII						
担当教員	古家　伸一					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z41220
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法について学習・実践する。
授業の概要	「データを読み、説明し、扱う」データリテラシーに関する知識・技能を元に、数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法について学習し、実践する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法が身に付いている。【知識・理解】 (2) 数理・データサイエンス・AIの基本的な活用を実践できるようになっている。【汎用的技能】 (3) 情報機器を使って適切にデータの集計や処理、加工を行い、資料やレポートを作成することができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回 授業概要説明 第 2回 Excel を使う (1) 第 3回 Excel を使う (2) 第 4回 統計情報の正しい理解 第 5回 確率、順列、組み合わせ 第 6回 データの分布と代表値 第 7回 データのばらつき、母集団と標本抽出 第 8回 相関と因果、クロス集計表 第 9回 データの可視化 第10回 データの表現 第11回 データの比較 第12回 データの並び替え 第13回 アルゴリズムの表現、並び替え 第14回 画像解析の概要 第15回 まとめ ※全15回で[PC必携]のこと
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：指示された内容について調査したり、予習して理解したりする。＜2時間＞ 授業後学習：授業内に行った演習を最後まで行って完成させ、その結果を指示された方法で次回の講義までに提出する。＜2時間＞
授業方法	講義に演習を交えた形式で行う。＜BYOD対象科目＞ 講義内容の説明を受けつつ、受講生は持参したノートパソコンを使ってインターネット上の情報を検索したり、資料やデータを入手したりする。さらに、演習を通して具体的な操作やデータ処理等を行い、講義内容の理解を深める。
評価基準と評価方法	講義を通して作成・提出されたファイルの内容（完成度、理解度等）を評価する。到達目標(1)～(3)に関する確認。
履修上の注意	すべての授業回で受講生個人のノートパソコンを利用するので、必ず持参のうえ受講すること。止むを得ず授業を欠席した場合は、次回の授業までに授業用ウェブサイト上の説明や資料を使って欠席した授業の内容を必ず自習し、必要なファイルを作成・提出すること。
教科書	なし。授業用ウェブサイト上で必要な情報や資料を提供する。
参考書	なし。必要があれば、授業中および授業用ウェブサイト上で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	情報系列						
科目名	データサイエンス・AIリテラシーII						
担当教員	古家　伸一					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z41220
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法について学習・実践する。
授業の概要	「データを読み、説明し、扱う」データリテラシーに関する知識・技能を元に、数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法について学習し、実践する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法が身に付いている。【知識・理解】 (2) 数理・データサイエンス・AIの基本的な活用を実践できるようになっている。【汎用的技能】 (3) 情報機器を使って適切にデータの集計や処理、加工を行い、資料やレポートを作成することができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回 授業概要説明 第 2回 Excel を使う (1) 第 3回 Excel を使う (2) 第 4回 統計情報の正しい理解 第 5回 確率、順列、組み合わせ 第 6回 データの分布と代表値 第 7回 データのばらつき、母集団と標本抽出 第 8回 相関と因果、クロス集計表 第 9回 データの可視化 第10回 データの表現 第11回 データの比較 第12回 データの並び替え 第13回 アルゴリズムの表現、並び替え 第14回 画像解析の概要 第15回 まとめ ※全15回で[PC必携]のこと
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：指示された内容について調査したり、予習して理解したりする。＜2時間＞ 授業後学習：授業内に行った演習を最後まで行って完成させ、その結果を指示された方法で次回の講義までに提出する。＜2時間＞
授業方法	講義に演習を交えた形式で行う。＜BYOD対象科目＞ 講義内容の説明を受けつつ、受講生は持参したノートパソコンを使ってインターネット上の情報を検索したり、資料やデータを入手したりする。さらに、演習を通して具体的な操作やデータ処理等を行い、講義内容の理解を深める。
評価基準と評価方法	講義を通して作成・提出されたファイルの内容（完成度、理解度等）を評価する。到達目標(1)～(3)に関する確認。
履修上の注意	すべての授業回で受講生個人のノートパソコンを利用するので、必ず持参のうえ受講すること。止むを得ず授業を欠席した場合は、次回の授業までに授業用ウェブサイト上の説明や資料を使って欠席した授業の内容を必ず自習し、必要なファイルを作成・提出すること。
教科書	なし。授業用ウェブサイト上で必要な情報や資料を提供する。
参考書	なし。必要があれば、授業中および授業用ウェブサイト上で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	情報系列						
科目名	データサイエンス・AIリテラシーII						
担当教員	古家　伸一					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Z41220
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法について学習・実践する。
授業の概要	「データを読み、説明し、扱う」データリテラシーに関する知識・技能を元に、数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法について学習し、実践する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法が身に付いている。【知識・理解】 (2) 数理・データサイエンス・AIの基本的な活用を実践できるようになっている。【汎用的技能】 (3) 情報機器を使って適切にデータの集計や処理、加工を行い、資料やレポートを作成することができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回 授業概要説明 第 2回 Excel を使う (1) 第 3回 Excel を使う (2) 第 4回 統計情報の正しい理解 第 5回 確率、順列、組み合わせ 第 6回 データの分布と代表値 第 7回 データのばらつき、母集団と標本抽出 第 8回 相関と因果、クロス集計表 第 9回 データの可視化 第10回 データの表現 第11回 データの比較 第12回 データの並び替え 第13回 アルゴリズムの表現、並び替え 第14回 画像解析の概要 第15回 まとめ ※全15回で[PC必携]のこと
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：指示された内容について調査したり、予習して理解したりする。＜2時間＞ 授業後学習：授業内に行った演習を最後まで行って完成させ、その結果を指示された方法で次回の講義までに提出する。＜2時間＞
授業方法	講義に演習を交えた形式で行う。＜BYOD対象科目＞ 講義内容の説明を受けつつ、受講生は持参したノートパソコンを使ってインターネット上の情報を検索したり、資料やデータを入手したりする。さらに、演習を通して具体的な操作やデータ処理等を行い、講義内容の理解を深める。
評価基準と評価方法	講義を通して作成・提出されたファイルの内容（完成度、理解度等）を評価する。到達目標(1)～(3)に関する確認。
履修上の注意	すべての授業回で受講生個人のノートパソコンを利用するので、必ず持参のうえ受講すること。止むを得ず授業を欠席した場合は、次回の授業までに授業用ウェブサイト上の説明や資料を使って欠席した授業の内容を必ず自習し、必要なファイルを作成・提出すること。
教科書	なし。授業用ウェブサイト上で必要な情報や資料を提供する。
参考書	なし。必要があれば、授業中および授業用ウェブサイト上で紹介する。

全学共通科目の教育目標およびカリキュラムポリシー

教育目標

建学の精神を理解し、幅広い教養と高度なコミュニケーション能力をもった、地域や社会の要請に応えうる心身共に健康な人材の育成を目標としている。そのために、全学共通科目の履修を通して、次の能力を養成する方針である。

1．知識・理解
　(1) 建学の精神の土台であるキリスト教とその人間観を理解している。
　(2) 社会、文化、自然等に関わる幅広い教養を身につけている。
2．汎用的技能
　(1) 他者との円滑なコミュニケーションを図るための、また、専門教育課程での学びの基礎となる日本語を正しく使う力を身につけている。
　(2) 数理・データサイエンス・AIの基本的な知識に基づき、情報を収集・分析し、情報分野に限らず様々な分野で対処できる能力を身につけている。
3．態度・志向性
　(1) 自分自身の人生であるキャリアを自らの力で作り上げて、社会的･職業的に自立する態度を身につけている。
　(2) 他者への寛容や共生の精神、地域社会への貢献に対する感覚を身につけている。
　(3) 生涯にわたり健康な心身の保持増進を図る姿勢を身につけている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学の教育理念・教育目標に基づき設定された全学共通科目の教育目標を達成するために、以下の系列を置いて科目を配置している。

●社会と人間系列

本学の歴史と建学の精神、教育理念、キリスト教に関する基本的な知識、キリスト教の愛の精神について理解する。その理解に基づき、キリスト教関連科目、ダイバーシティ関連科目、ボランティア科目などを通して、多様性を尊重し、思いやりの心をもって地域・社会に貢献できる態度と能力を養う。また、スポーツ実習などにより、生涯にわたり健康な心身の保持と増強を図る態度と方法を身につける。

●キャリア系列

「キャリアデザインⅠ」では、4年間の「大学生活での過ごし方」を描きながら、未来の「生き方」「働き方」を想像するためにディスカッションを通して多様な考え方を得る。そして自分自身のキャリアを自らの力で創り、社会的・職業的に自立する態度と能力を養う。また「キャリアデザインⅡ」では、女性としての新しい生き方（ワーク・ライフ・バランス）を考え、社会で役立つ力を養うことを目指す。

●コミュニケーション系列

日本語を書く力、日本語で表現する力を養う科目を通して、専門教育科目の学びの基礎となる日本語を正しく使う力を身につけるとともに、他者との円滑なコミュニケーションを図る技術を養う科目、知識をもとに論理的に考える力を養う科目を通して、自分の考えを的確に表現できるコミュニケーション能力を身につける。

●情報系列

数理･データサイエンス･AIによる社会変化を理解し、その活用や留意点を考える。また、数理･データサイエンス･AIが、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ることについて学習し、その基本的な活用法を身につける。さらに、インターネットによる情報の検索・収集・活用ならびに発信のための技術を習得する。そして、これらの知識・技術を基に情報分野に限らず様々な分野の問題に対処できる能力を身につける。

●データ理解と統計系列

生活や社会における具体的なデータに基づきながら数学の基礎と統計学の基礎を学ぶ科目、データ分析を実践的に学ぶ科目を通して、情報を収集・分析して様々な分野に応用できる力を養成する。

●現代の教養系列

人間のこころと身体について理解する科目、人間の生きてきた歴史を学ぶ科目、人間を取り巻く自然・環境について考える科目や文学・芸術を学ぶことで、生涯にわたって学び続けることのできる基礎力となる教養を身につけるとともに、自分の人生や社会に結び付けて考える態度を養う。

全学共通科目の履修について（文学部）

1．全学共通科目の卒業必要単位数は、各学科カリキュラム頁の卒業必要単位数表を参照すること。
2．授業内容が学科の専門教育科目と重複する科目は履修できない。科目一覧表の備考欄を参照すること。
3．「伝わる文章Ⅰ・Ⅱ」は原則として、同じ時限、同じ担当者のクラスを合わせて履修すること。
「WebリテラシーⅠ・Ⅱ」は同じ担当者のクラスを履修することが望ましい。
4．新入生の「データサイエンス・AIリテラシーⅠ・Ⅱ」は、あらかじめ登録済となっているので事前登録の必要はない。
5．「スポーツ実習」は合計8単位を超えて履修することはできない。

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）について

本学では、数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力の育成のために、全学共通教育科目の情報系列に「データサイエンス・AIリテラシーⅠ」及び「データサイエンス・AIリテラシーⅡ」（各2単位合計4単位）を必修科目として設置し、全学生の数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な能力の向上を図っています。

本学の学生は、卒業時に全員「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」を修めることになります。

※本学は、文部科学大臣が認定する「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に2025年度に認定申請を行う予定です。

全学共通科目 一覧表〔文学部　2022年度以降入学生〕　　（文１～３年）

系列		科目ナンバー	授業科目	配当年次	開講区分	週時間	単位	備考
社会と人間	必修	Z11010	神戸松蔭とキリスト教	1	前期	2	2	
		Z11020	キリスト教の基礎	1	後期	2	2	
	選択	Z12030	聖書学入門	2－3	後期	2	2	2024年度まで開講
		Z12040	キリスト教と音楽	2－3	前期	2	2	
		Z12050	キリスト教と美術	2－3	後期	2	2	
		Z12060	現代社会とキリスト教	2－3	後期	2	2	
		Z12070	諸宗教とキリスト教	2－3	前期	2	2	
		Z11080	パイプオルガン入門Ⅰ	1－2	集中		2	
		Z11090	パイプオルガン入門Ⅱ	1－2	集中		2	「パイプオルガン入門Ⅰ」履修者あるいは、それと同等以上の能力があると認められる者に限る
		Z11100	健康・スポーツ総論	1－2	前期	2	2	
		Z11110	女性の身体と健康	1－2	前期	2	2	2024年度まで開講
		Z11121	スポーツ実習	1－2	前期	2	1	バドミントン
		Z11122	スポーツ実習	1－2	後期	2	1	テニス（初心者～）
		Z11123	スポーツ実習	1－2	後期	2	1	ゴルフ
		Z11124	スポーツ実習	1－2	後期	2	1	ソフトバレーボール
		Z11125	スポーツ実習	1－2	前期	2	1	フィットネス
		Z11125	スポーツ実習	1－2	後期	2	1	フィットネス
		Z11126	スポーツ実習	1－2	後期	2	1	ニュースポーツ
		Z11130	ジェンダー論入門	1－2	前期	2	2	
		Z11140	ジェンダー論演習	1－2	後期	2	2	
		Z11150	ダイバーシティ入門	1－2	前期	2	2	
		Z11160	ダイバーシティ演習	1－2	後期	2	2	
		Z12170	文化人類学	2－3	前期	2	2	2024年度まで開講
		Z11180	ボランティア論	1－2	前期	2	2	
		Z11180	ボランティア論	1－2	後期	2	2	
		Z12190	ボランティア体験	2－3	集中		1	
		Z12200	神戸研究総論	2－3	前期	2	2	
		Z11210	社会福祉概論	1－2	前期	2	2	社会福祉主事任用資格指定科目
		Z11220	女性と法	1－2	前期	2	2	
		Z11230	くらしと憲法	1－2	後期	2	2	
		Z11240	くらしとリスクマネジメント	1－2	後期	2	2	2024年度まで開講
		Z11250	哲学	1－2	後期	2	2	
		Z11260	現代の倫理	1－2	後期	2	2	
キャリア	必修	Z21010	キャリアデザインⅠ	1	前期	2	2	E・J混合クラス
	選択	Z21020	キャリアデザインⅡ	1	後期	2	2	インターンシップ希望者は履修しておくことが望ましい
		Z21020	キャリアデザインⅡ	2	前期	2	2	インターンシップ希望者は履修しておくことが望ましい
		Z23030	キャリアデザイン研究	3	前期	2	2	
		Z23030	キャリアデザイン研究	3	後期	2	2	
		Z23040	インターンシップ	3	集中		1	「キャリアデザインⅡ」「企業・職種・業界の基礎知識」を履修していることが望ましい
		Z22050	企業・職種・業界の基礎知識	2	前期	2	2	インターンシップ希望者は履修しておくことが望ましい
		Z22050	企業・職種・業界の基礎知識	2	後期	2	2	インターンシップ希望者は履修しておくことが望ましい
		Z21060	女性とキャリア形成	2	前期	2	2	
		Z21060	女性とキャリア形成	2	後期	2	2	
		Z21070	簿記・会計の基礎	1－2	前期	2	2	
		Z21070	簿記・会計の基礎	1－2	後期	2	2	
		Z21080	簿記・会計の実践	1－2	後期	2	2	「簿記・会計の基礎」履修者あるいは、それと同等以上の能力があると認められるものに限る
		Z21090	ホスピタリティ・マネジメント	1－2	前期	2	2	
		Z21090	ホスピタリティ・マネジメント	1－2	後期	2	2	
		Z22100	ファイナンシャル・プランニング	2－3	前期	2	2	
		Z22100	ファイナンシャル・プランニング	2－3	後期	2	2	
		Z21110	海外インターンシップ	1－2	集中		1	夏期
		Z21110	海外インターンシップ	1－2	集中		1	春期

系列		科目ナンバー	授業科目	配当年次	開講区分	週時間	単位	備考
コミュニケーション	選択必修	Z31010	伝わる文章Ⅰ	1－2	前期	2	2	2024年度まで開講
		Z31020	伝わる文章Ⅱ	1－2	後期	2	2	2024年度まで開講 「伝わる文章Ⅰ」を履修していることが望ましい
		Z32030	伝わる話しことば	2－3	前期	2	2	
		Z32030	伝わる話しことば	2－3	後期	2	2	
		Z31040	コミュニケーション・スキル	1－2	後期	2	2	
		Z32050	ディベート演習Ⅰ	2－3	前期	2	2	2024年度まで開講
		Z32060	ディベート演習Ⅱ	2－3	後期	2	2	2024年度まで開講
情報	必修	Z41210	データサイエンス・AIリテラシーⅠ	1	前期	2	2	2024年度入学生用
		Z41220	データサイエンス・AIリテラシーⅡ	1	後期	2	2	2024年度入学生用
		Z41010	情報リテラシーⅠ	1	前期	2	1	2023年度以前入学生用
		Z41020	情報リテラシーⅡ	1	後期	2	1	2023年度以前入学生用 「情報リテラシーⅠ」履修者あるいは、それと同等以上の能力があると認められる者に限る
	選択	Z41030	WebリテラシーⅠ	1	前期	2	1	2024年度まで開講
		Z41040	WebリテラシーⅡ	1	後期	2	1	2024年度まで開講 「WebリテラシーⅠ」履修者あるいは、それと同等以上の能力があると認められる者に限る
		Z42050	WebプログラミングAⅠ	2	前期	2	1	2025年度まで開講
		Z42060	WebプログラミングAⅡ	2	後期	2	1	2025年度まで開講 「WebプログラミングAⅠ」履修者あるいは、それと同等以上の能力があると認められる者に限る
		Z42070	WebプログラミングBⅠ	2	前期	2	1	2025年度まで開講
		Z42080	WebプログラミングBⅡ	2	後期	2	1	2025年度まで開講 「WebプログラミングBⅠ」履修者あるいは、それと同等以上の能力があると認められる者に限る
		Z41090	コンピュータグラフィックスとアートⅠ	1	前期	2	1	2024年度まで開講
		Z41100	コンピュータグラフィックスとアートⅡ	1	後期	2	1	2024年度まで開講 「コンピュータグラフィックスとアートⅠ」履修者あるいは、それと同等以上の能力があると認められる者に限る
データ理解と統計	選択	Z71010	現代社会とデータ	1－2	後期	2	2	2024年度まで開講
		Z72020	データ理解と統計	2－3	前期	2	2	2025年度まで開講 「現代社会とデータ」履修者あるいは、それと同等以上の能力があると認められる者に限る
現代の教養	選択	Z5103A	作家と文学作品A	1－2	前期	2	2	
		Z5103B	作家と文学作品B	1－2	後期	2	2	
		Z51040	児童文学	1－2	前期	2	2	2023年度以前入学生用　2024年度まで開講
		Z51050	音楽鑑賞	1－2	後期	2	2	
		Z51060	美術鑑賞	1－2	前期	2	2	
		Z51070	日本の歴史	1－2	前期	2	2	2024年度まで開講
		Z51080	アジア史	1－2	前期	2	2	2024年度まで開講
		Z51090	ヨーロッパ史	1－2	後期	2	2	2024年度まで開講
		Z51100	産業史	1－2	後期	2	2	
		Z51110	心理学概論	1－2	前期	2	2	社会福祉主事任用資格指定科目
		Z51110	心理学概論	1－2	後期	2	2	社会福祉主事任用資格指定科目
		Z51120	社会心理学	1－2	前期	2	2	
		Z51130	こころの健康	1－2	前期	2	2	
		Z51130	こころの健康	1－2	後期	2	2	
		Z51140	食物と身体	1－2	後期	2	2	
		Z51150	くらしと医療	1－2	前期	2	2	2024年度まで開講
		Z51160	社会学概論	1－2	前期	2	2	社会福祉主事任用資格指定科目
		Z51170	経済学	1－2	前期	2	2	社会福祉主事任用資格指定科目
		Z5118A	現代社会と経済A	1－2	前期	2	2	
		Z5118B	現代社会と経済B	1－2	後期	2	2	
		Z51190	現代社会と政治	1－2	前期	2	2	
		Z51190	現代社会と政治	1－2	後期	2	2	
		Z51200	現代社会とメディア	1－2	後期	2	2	
		Z5121A	地球環境A（地球環境と人間）	1－2	前期	2	2	
		Z5121B	地球環境B（生物多様性）	1－2	前期	2	2	
		Z5121C	地球環境C（エネルギーと資源）	1－2	後期	2	2	

人間科学部　授業科目

全学共通科目の教育目標およびカリキュラムポリシー

教育目標

建学の精神を理解し、幅広い教養と高度なコミュニケーション能力をもった、地域や社会の要請に応えうる心身共に健康な人材の育成を目標としている。そのために、全学共通科目の履修を通して、次の能力を養成する方針である。

1．知識・理解
　(1) 建学の精神の土台であるキリスト教とその人間観を理解している。
　(2) 社会、文化、自然等に関わる幅広い教養を身につけている。
2．汎用的技能
　(1) 他者との円滑なコミュニケーションを図るための、また、専門教育課程での学びの基礎となる日本語を正しく使う力を身につけている。
　(2) 数理・データサイエンス・AIの基本的な知識に基づき、情報を収集・分析し、情報分野に限らず様々な分野で対処できる能力を身につけている。
3．態度・志向性
　(1) 自分自身の人生であるキャリアを自らの力で作り上げて、社会的・職業的に自立する態度を身につけている。
　(2) 他者への寛容や共生の精神、地域社会への貢献に対する感覚を身につけている。
　(3) 生涯にわたり健康な心身の保持増進を図る姿勢を身につけている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学の教育理念・教育目標に基づき設定された全学共通科目の教育目標を達成するために、以下の系列を置いて科目を配置している。

●社会と人間系列

本学の歴史と建学の精神、教育理念、キリスト教に関する基本的な知識、キリスト教の愛の精神について理解する。その理解に基づき、キリスト教関連科目、ダイバーシティ関連科目、ボランティア科目などを通して、多様性を尊重し、思いやりの心をもって地域・社会に貢献できる態度と能力を養う。また、スポーツ実習などにより、生涯にわたり健康な心身の保持と増強を図る態度と方法を身につける。

●キャリア系列

「キャリアデザインⅠ」では、４年間の「大学生活での過ごし方」を描きながら、未来の「生き方」「働き方」を想像するためにディスカッションを通して多様な考え方を得る。そして自分自身のキャリアを自らの力で創り、社会的・職業的に自立する態度と能力を養う。また「キャリアデザインⅡ」では、女性としての新しい生き方（ワーク・ライフ・バランス）を考え、社会で役立つ力を養うことを目指す。

●コミュニケーション系列

日本語を書く力、日本語で表現する力を養う科目を通して、専門教育科目の学びの基礎となる日本語を正しく使う力を身につけるとともに、他者との円滑なコミュニケーションを図る技術を養う科目、知識をもとに論理的に考える力を養う科目を通して、自分の考えを的確に表現できるコミュニケーション能力を身につける。

●情報系列

数理・データサイエンス・AIによる社会変化を理解し、その活用や留意点を考える。また、数理・データサイエンス・AIが、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ることについて学習し、その基本的な活用法を身につける。さらに、インターネットによる情報の検索・収集・活用ならびに発信のための技術を習得する。そして、これらの知識・技術を基に情報分野に限らず様々な分野の問題に対処できる能力を身につける。

●データ理解と統計系列

生活や社会における具体的なデータに基づきながら数学の基礎と統計学の基礎を学ぶ科目、データ分析を実践的に学ぶ科目を通して、情報を収集・分析して様々な分野に応用できる力を養成する。

●現代の教養系列

人間のこころと身体について理解する科目、人間の生きてきた歴史を学ぶ科目、人間を取り巻く自然・環境について考える科目や文学・芸術を学ぶことで、生涯にわたって学び続けることのできる基礎力となる教養を身につけるとともに、自分の人生や社会に結び付けて考える態度を養う。

全学共通科目の履修について（人間科学部）

1．全学共通科目の卒業必要単位数は、各学科カリキュラム頁の卒業必要単位数表を参照すること。
2．授業内容が学科の専門教育科目と重複する科目は履修できない。科目一覧表の備考欄を参照すること。
3．「伝わる文章Ⅰ・Ⅱ」は原則として、同じ時限、同じ担当者のクラスを合わせて履修すること。
「WebリテラシーⅠ・Ⅱ」は同じ担当者のクラスを履修することが望ましい。
4．新入生の「データサイエンス・AIリテラシーⅠ・Ⅱ」は、あらかじめ登録済となっているので事前登録の必要はない。
5．「スポーツ実習」は合計8単位を超えて履修することはできない。

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）について

本学では、数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力の育成のために、全学共通教育科目の情報系列に「データサイエンス・AIリテラシーⅠ」及び「データサイエンス・AIリテラシーⅡ」（各2単位合計4単位）を必修科目として設置し、全学生の数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な能力の向上を図っています。

本学の学生は、卒業時に全員「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」を修めることになります。

※本学は、文部科学大臣が認定する「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に2025年度に認定申請を行う予定です。

全学共通科目 一覧表〔人間科学部　2022年度以降入学生〕

（人１～３年）

系列		科目ナンバー	授業科目	配当年次	開講区分	週時間	単位	備考
社会と人間	必修	Z11010	神戸松蔭とキリスト教	1	前期	2	2	
		Z11020	キリスト教の基礎	1	後期	2	2	
	選択	Z12030	聖書学入門	2－3	後期	2	2	2024年度まで開講
		Z12040	キリスト教と音楽	2－3	前期	2	2	
		Z12050	キリスト教と美術	2－3	後期	2	2	
		Z12060	現代社会とキリスト教	2－3	後期	2	2	
		Z12070	諸宗教とキリスト教	2－3	前期	2	2	
		Z11080	パイプオルガン入門Ⅰ	1－2	集中		2	
		Z11090	パイプオルガン入門Ⅱ	1－2	集中		2	「パイプオルガン入門Ⅰ」履修者あるいは、それと同等以上の能力があると認められる者に限る
		Z11100	健康・スポーツ総論	1－2	前期	2	2	
		Z11110	女性の身体と健康	1－2	前期	2	2	2024年度まで開講
		Z11121	スポーツ実習	1－2	前期	2	1	バドミントン
		Z11122	スポーツ実習	1－2	後期	2	1	テニス（初心者～）
		Z11123	スポーツ実習	1－2	後期	2	1	ゴルフ
		Z11124	スポーツ実習	1－2	後期	2	1	ソフトバレーボール
		Z11125	スポーツ実習	1－2	前期	2	1	フィットネス
		Z11125	スポーツ実習	1－2	後期	2	1	フィットネス
		Z11126	スポーツ実習	1－2	後期	2	1	ニュースポーツ
		Z11130	ジェンダー論入門	1－2	前期	2	2	
		Z11140	ジェンダー論演習	1－2	後期	2	2	
		Z11150	ダイバーシティ入門	1－2	前期	2	2	
		Z11160	ダイバーシティ演習	1－2	後期	2	2	
		Z12170	文化人類学	2－3	前期	2	2	2024年度まで開講
		Z11180	ボランティア論	1－2	前期	2	2	
		Z11180	ボランティア論	1－2	後期	2	2	
		Z12190	ボランティア体験	2－3	集中		1	
		Z12200	神戸研究総論	2－3	前期	2	2	
		Z11210	社会福祉概論	1－2	前期	2	2	社会福祉主事任用資格指定科目
		Z11220	女性と法	1－2	前期	2	2	
		Z11230	くらしと憲法	1－2	後期	2	2	
		Z11240	くらしとリスクマネジメント	1－2	後期	2	2	2024年度まで開講
		Z11250	哲学	1－2	後期	2	2	
		Z11260	現代の倫理	1－2	後期	2	2	
キャリア	必修	Z21010	キャリアデザインⅠ	1	前期	2	2	P, U, FH（混合クラス）
	選択	Z21010	キャリアデザインⅠ	1	前期	2	2	N
		Z21020	キャリアデザインⅡ	1	後期	2	2	インターンシップ希望者は履修しておくことが望ましい
		Z21020	キャリアデザインⅡ	2	前期	2	2	インターンシップ希望者は履修しておくことが望ましい
		Z23030	キャリアデザイン研究	3	前期	2	2	
		Z23030	キャリアデザイン研究	3	後期	2	2	
		Z23040	インターンシップ	3	集中		1	「キャリアデザインⅡ」・「企業・職種・業界の基礎知識」を履修していることが望ましい
		Z22050	企業・職種・業界の基礎知識	2	前期	2	2	インターンシップ希望者は履修しておくことが望ましい
		Z22050	企業・職種・業界の基礎知識	2	後期	2	2	インターンシップ希望者は履修しておくことが望ましい
		Z21060	女性とキャリア形成	2	前期	2	2	
		Z21060	女性とキャリア形成	2	後期	2	2	
		Z21070	簿記・会計の基礎	1－2	前期	2	2	
		Z21070	簿記・会計の基礎	1－2	後期	2	2	
		Z21080	簿記・会計の実践	1－2	後期	2	2	「簿記・会計の基礎」履修者あるいは、それと同等以上の能力があると認められるものに限る
		Z21090	ホスピタリティ・マネジメント	1－2	前期	2	2	
		Z21090	ホスピタリティ・マネジメント	1－2	後期	2	2	
		Z22100	ファイナンシャル・プランニング	2－3	前期	2	2	
		Z22100	ファイナンシャル・プランニング	2－3	後期	2	2	
		Z21110	海外インターンシップ	1－2	集中		1	夏期
		Z21110	海外インターンシップ	1－2	集中		1	春期

系列		科目ナンバー	授業科目	配当年次	開講区分	週時間	単位	備考
コミュニケーション	選択必修	Z31010	伝わる文章Ⅰ	1－2	前期	2	2	2024年度まで開講
		Z31020	伝わる文章Ⅱ	1－2	後期	2	2	2024年度まで開講 「伝わる文章Ⅰ」を履修していることが望ましい
		Z32030	伝わる話しことば	2－3	前期	2	2	
		Z32030	伝わる話しことば	2－3	後期	2	2	
		Z31040	コミュニケーション・スキル	1－2	後期	2	2	
		Z32050	ディベート演習Ⅰ	2－3	前期	2	2	2024年度まで開講
		Z32060	ディベート演習Ⅱ	2－3	後期	2	2	2024年度まで開講
情報	必修	Z41210	データサイエンス・AIリテラシーⅠ	1	前期	2	2	2024年度入学生用
		Z41220	データサイエンス・AIリテラシーⅡ	1	後期	2	2	2024年度入学生用
		Z41010	情報リテラシーⅠ	1	前期	2	1	2023年度以前入学生用
		Z41020	情報リテラシーⅡ	1	後期	2	1	2023年度以前入学生用 「情報リテラシーⅠ」履修者あるいは、それと同等以上の能力があると認められる者に限る
	選択	Z41030	WebリテラシーⅠ	1	前期	2	1	2024年度まで開講
		Z41040	WebリテラシーⅡ	1	後期	2	1	2024年度まで開講 「WebリテラシーⅠ」履修者あるいは、それと同等以上の能力があると認められる者に限る
		Z42050	WebプログラミングAⅠ	2	前期	2	1	2025年度まで開講
		Z42060	WebプログラミングAⅡ	2	後期	2	1	2025年度まで開講 「WebプログラミングAⅠ」履修者あるいは、それと同等以上の能力があると認められる者に限る
		Z42070	WebプログラミングBⅠ	2	前期	2	1	2025年度まで開講
		Z42080	WebプログラミングBⅡ	2	後期	2	1	2025年度まで開講 「WebプログラミングBⅠ」履修者あるいは、それと同等以上の能力があると認められる者に限る
		Z41090	コンピュータグラフィックスとアートⅠ	1	前期	2	1	2024年度まで開講
		Z41100	コンピュータグラフィックスとアートⅡ	1	後期	2	1	2024年度まで開講 「コンピュータグラフィックスとアートⅠ」履修者あるいは、それと同等以上の能力があると認められる者に限る
データ理解と統計	選択	Z71010	現代社会とデータ	1－2	後期	2	2	2024年度まで開講
		Z72020	データ理解と統計	2－3	前期	2	2	P以外　2025年度まで開講 「現代社会とデータ」履修者あるいは、それと同等以上の能力があると認められる者に限る
現代の教養	選択	Z5103A	作家と文学作品A	1－2	前期	2	2	
		Z5103B	作家と文学作品B	1－2	後期	2	2	
		Z51040	児童文学	1－2	前期	2	2	2023年度以前入学生用　2024年度まで開講
		Z51050	音楽鑑賞	1－2	後期	2	2	
		Z51060	美術鑑賞	1－2	前期	2	2	
		Z51070	日本の歴史	1－2	前期	2	2	2024年度まで開講
		Z51080	アジア史	1－2	前期	2	2	2024年度まで開講
		Z51090	ヨーロッパ史	1－2	後期	2	2	2024年度まで開講
		Z51100	産業史	1－2	後期	2	2	
		Z51110	心理学概論	1－2	前期	2	2	社会福祉主事任用資格指定科目　P以外
		Z51110	心理学概論	1－2	後期	2	2	社会福祉主事任用資格指定科目　P以外
		Z51120	社会心理学	1－2	前期	2	2	P以外
		Z51130	こころの健康	1－2	前期	2	2	
		Z51130	こころの健康	1－2	後期	2	2	
		Z51140	食物と身体	1－2	後期	2	2	
		Z51150	くらしと医療	1－2	前期	2	2	2024年度まで開講
		Z51160	社会学概論	1－2	前期	2	2	社会福祉主事任用資格指定科目
		Z51170	経済学	1－2	前期	2	2	社会福祉主事任用資格指定科目
		Z5118A	現代社会と経済A	1－2	前期	2	2	
		Z5118B	現代社会と経済B	1－2	後期	2	2	
		Z51190	現代社会と政治	1－2	前期	2	2	
		Z51190	現代社会と政治	1－2	後期	2	2	
		Z51200	現代社会とメディア	1－2	後期	2	2	
		Z5121A	地球環境A（地球環境と人間）	1－2	前期	2	2	
		Z5121B	地球環境B（生物多様性）	1－2	前期	2	2	
		Z5121C	地球環境C（エネルギーと資源）	1－2	後期	2	2	

教育学部　授業科目

全学共通科目の教育目標およびカリキュラムポリシー

教育目標

建学の精神を理解し、幅広い教養と高度なコミュニケーション能力をもった、地域や社会の要請に応えうる心身共に健康な人材の育成を目標としている。そのために、全学共通科目の履修を通して、次の能力を養成する方針である。

1．知識・理解
　(1) 建学の精神の土台であるキリスト教とその人間観を理解している。
　(2) 社会、文化、自然等に関わる幅広い教養を身につけている。
2．汎用的技能
　(1) 他者との円滑なコミュニケーションを図るための、また、専門教育課程での学びの基礎となる日本語を正しく使う力を身につけている。
　(2) 数理・データサイエンス・AIの基本的な知識に基づき、情報を収集・分析し、情報分野に限らず様々な分野で対処できる能力を身につけている。
3．態度・志向性
　(1) 自分自身の人生であるキャリアを自らの力で作り上げて、社会的・職業的に自立する態度を身につけている。
　(2) 他者への寛容や共生の精神、地域社会への貢献に対する感覚を身につけている。
　(3) 生涯にわたり健康な心身の保持増進を図る姿勢を身につけている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学の教育理念・教育目標に基づき設定された全学共通科目の教育目標を達成するために、以下の系列を置いて科目を配置している。

●社会と人間系列

本学の歴史と建学の精神、教育理念、キリスト教に関する基本的な知識、キリスト教の愛の精神について理解する。その理解に基づき、キリスト教関連科目、ダイバーシティ関連科目、ボランティア科目などを通して、多様性を尊重し、思いやりの心をもって地域・社会に貢献できる態度と能力を養う。また、スポーツ実習などにより、生涯にわたり健康な心身の保持と増強を図る態度と方法を身につける。

●キャリア系列

「キャリアデザインⅠ」では、4年間の「大学生活での過ごし方」を描きながら、未来の「生き方」「働き方」を想像するためにディスカッションを通して多様な考え方を得る。そして自分自身のキャリアを自らの力で創り、社会的・職業的に自立する態度と能力を養う。また「キャリアデザインⅡ」では、女性としての新しい生き方（ワーク・ライフ・バランス）を考え、社会で役立つ力を養うことを目指す。

●コミュニケーション系列

日本語を書く力、日本語で表現する力を養う科目を通して、専門教育科目の学びの基礎となる日本語を正しく使う力を身につけるとともに、他者との円滑なコミュニケーションを図る技術を養う科目、知識をもとに論理的に考える力を養う科目を通して、自分の考えを的確に表現できるコミュニケーション能力を身につける。

●情報系列

数理・データサイエンス・AIによる社会変化を理解し、その活用や留意点を考える。また、数理・データサイエンス・AIが、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ることについて学習し、その基本的な活用法を身につける。さらに、インターネットによる情報の検索・収集・活用ならびに発信のための技術を習得する。そして、これらの知識・技術を基に情報分野に限らず様々な分野の問題に対処できる能力を身につける。

●データ理解と統計系列

生活や社会における具体的なデータに基づきながら数学の基礎と統計学の基礎を学ぶ科目、データ分析を実践的に学ぶ科目を通して、情報を収集・分析して様々な分野に応用できる力を養成する。

●現代の教養系列

人間のこころと身体について理解する科目、人間の生きてきた歴史を学ぶ科目、人間を取り巻く自然・環境について考える科目や文学・芸術を学ぶことで、生涯にわたって学び続けることのできる基礎力となる教養を身につけるとともに、自分の人生や社会に結び付けて考える態度を養う。

全学共通科目の履修について（教育学部）

1．全学共通科目の卒業必要単位数は、各学科カリキュラム頁の卒業必要単位数表を参照すること。
2．授業内容が学科の専門教育科目と重複する科目は履修できない。科目一覧表の備考欄を参照すること。
3．「伝わる文章Ⅰ・Ⅱ」は原則として、同じ時限、同じ担当者のクラスを合わせて履修すること。
「WebリテラシーⅠ・Ⅱ」は同じ担当者のクラスを履修することが望ましい。
4．新入生の「データサイエンス・AIリテラシーⅠ・Ⅱ」は、あらかじめ登録済となっているので事前登録の必要はない。
5．「スポーツ実習」は合計８単位を超えて履修することはできない。

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）について

本学では、数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力の育成のために、全学共通教育科目の情報系列に「データサイエンス・AIリテラシーⅠ」及び「データサイエンス・AIリテラシーⅡ」（各２単位合計４単位）を必修科目として設置し、全学生の数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な能力の向上を図っています。

本学の学生は、卒業時に全員「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」を修めることになります。

※本学は、文部科学大臣が認定する「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に2025年度に認定申請を行う予定です。

全学共通科目 一覧表〔教育学部　2023年度以降入学生〕　　（教１～２年）

系列		科目ナンバー	授業科目	配当年次	開講区分	週時間	単位	備考
社会と人間	必修	Z11010	神戸松蔭とキリスト教	1	前期	2	2	
		Z11020	キリスト教の基礎	1	後期	2	2	
		Z11230	くらしと憲法	1－2	後期	2	2	
	選択	Z12030	聖書学入門	2－3	後期	2	2	2024年度まで開講
		Z12040	キリスト教と音楽	2－3	前期	2	2	
		Z12050	キリスト教と美術	2－3	後期	2	2	
		Z12060	現代社会とキリスト教	2－3	後期	2	2	
		Z12070	諸宗教とキリスト教	2－3	前期	2	2	
		Z11080	パイプオルガン入門Ⅰ	1－2	集中		2	
		Z11090	パイプオルガン入門Ⅱ	1－2	集中		2	「パイプオルガン入門Ⅰ」履修者あるいは、それと同等以上の能力があると認められる者に限る
		Z11100	健康・スポーツ総論	1－2	前期	2	2	
		Z11110	女性の身体と健康	1－2	前期	2	2	2024年度まで開講
		Z11121	スポーツ実習	1－2	前期	2	1	バドミントン
		Z11122	スポーツ実習	1－2	後期	2	1	テニス（初心者～）
		Z11123	スポーツ実習	1－2	後期	2	1	ゴルフ
		Z11124	スポーツ実習	1－2	後期	2	1	ソフトバレーボール
		Z11125	スポーツ実習	1－2	前期	2	1	フィットネス
		Z11125	スポーツ実習	1－2	後期	2	1	フィットネス
		Z11126	スポーツ実習	1－2	後期	2	1	ニュースポーツ
		Z11130	ジェンダー論入門	1－2	前期	2	2	
		Z11140	ジェンダー論演習	1－2	後期	2	2	
		Z11150	ダイバーシティ入門	1－2	前期	2	2	
		Z11160	ダイバーシティ演習	1－2	後期	2	2	
		Z12170	文化人類学	2－3	前期	2	2	2024年度まで開講
		Z11180	ボランティア論	1－2	前期	2	2	
		Z11180	ボランティア論	1－2	後期	2	2	
		Z12190	ボランティア体験	2－3	集中		1	
		Z12200	神戸研究総論	2－3	前期	2	2	
		Z11210	社会福祉概論	1－2	前期	2	2	社会福祉主事任用資格指定科目
		Z11220	女性と法	1－2	前期	2	2	
		Z11240	くらしとリスクマネジメント	1－2	後期	2	2	2024年度まで開講
		Z11250	哲学	1－2	後期	2	2	
		Z11260	現代の倫理	1－2	後期	2	2	
キャリア	選択	Z21010	キャリアデザインⅠ	1	前期	2	2	インターンシップ希望者は履修しておくことが望ましい
		Z21020	キャリアデザインⅡ	1	後期	2	2	インターンシップ希望者は履修しておくことが望ましい
		Z21020	キャリアデザインⅡ	2	前期	2	2	インターンシップ希望者は履修しておくことが望ましい
		Z23030	キャリアデザイン研究	3	前期	2	2	
		Z23030	キャリアデザイン研究	3	後期	2	2	
		Z23040	インターンシップ	3	集中		1	「キャリアデザインⅡ」・「企業・職種・業界の基礎知識」を履修していることが望ましい
		Z22050	企業・職種・業界の基礎知識	2	前期	2	2	インターンシップ希望者は履修しておくことが望ましい
		Z22050	企業・職種・業界の基礎知識	2	後期	2	2	インターンシップ希望者は履修しておくことが望ましい
		Z21060	女性とキャリア形成	2	前期	2	2	
		Z21060	女性とキャリア形成	2	後期	2	2	
		Z21070	簿記・会計の基礎	1－2	前期	2	2	
		Z21070	簿記・会計の基礎	1－2	後期	2	2	
		Z21080	簿記・会計の実践	1－2	後期	2	2	「簿記・会計の基礎」履修者あるいは、それと同等以上の能力があると認められるものに限る
		Z21090	ホスピタリティ・マネジメント	1－2	前期	2	2	
		Z21090	ホスピタリティ・マネジメント	1－2	後期	2	2	
		Z22100	ファイナンシャル・プランニング	2－3	前期	2	2	
		Z22100	ファイナンシャル・プランニング	2－3	後期	2	2	
		Z21110	海外インターンシップ	1－2	集中		1	夏期
		Z21110	海外インターンシップ	1－2	集中		1	春期

系列		科目ナンバー	授業科目	配当年次	開講区分	週時間	単位	備考
コミュニケーション	選択	Z31010	伝わる文章Ⅰ	1－2	前期	2	2	2024年度まで開講
		Z31020	伝わる文章Ⅱ	1－2	後期	2	2	2024年度まで開講 「伝わる文章Ⅰ」を履修していることが望ましい
		Z32030	伝わる話しことば	2－3	前期	2	2	
		Z32030	伝わる話しことば	2－3	後期	2	2	
		Z31040	コミュニケーション・スキル	1－2	前期	2	2	
		Z31040	コミュニケーション・スキル	1－2	後期	2	2	
		Z32050	ディベート演習Ⅰ	2－3	前期	2	2	2024年度まで開講
		Z32060	ディベート演習Ⅱ	2－3	後期	2	2	2024年度まで開講
情報	必修	Z41210	データサイエンス・AIリテラシーⅠ	1	前期	2	2	2024年度入学生用
		Z41220	データサイエンス・AIリテラシーⅡ	1	後期	2	2	2024年度入学生用
		Z41010	情報リテラシーⅠ	1	前期	2	1	2023年度以前入学生用
		Z41020	情報リテラシーⅡ	1	後期	2	1	2023年度以前入学生用 「情報リテラシーⅠ」履修者あるいは、それと同等以上の能力があると認められる者に限る
	選択	Z41030	WebリテラシーⅠ	1	前期	2	1	2024年度まで開講
		Z41040	WebリテラシーⅡ	1	後期	2	1	2024年度まで開講 「WebリテラシーⅠ」履修者あるいは、それと同等以上の能力があると認められる者に限る
		Z42050	WebプログラミングAⅠ	2	前期	2	1	2025年度まで開講
		Z42060	WebプログラミングAⅡ	2	後期	2	1	2025年度まで開講 「WebプログラミングAⅠ」履修者あるいは、それと同等以上の能力があると認められる者に限る
		Z42070	WebプログラミングBⅠ	2	前期	2	1	2025年度まで開講
		Z42080	WebプログラミングBⅡ	2	後期	2	1	2025年度まで開講 「WebプログラミングBⅠ」履修者あるいは、それと同等以上の能力があると認められる者に限る
		Z41090	コンピュータグラフィックスとアートⅠ	1	前期	2	1	2024年度まで開講
		Z41100	コンピュータグラフィックスとアートⅡ	1	後期	2	1	2024年度まで開講 「コンピュータグラフィックスとアートⅠ」履修者あるいは、それと同等以上の能力があると認められる者に限る
データ理解と統計	選択	Z71010	現代社会とデータ	1－2	後期	2	2	2024年度まで開講
		Z72020	データ理解と統計	2－3	前期	2	2	2025年度まで開講 「現代社会とデータ」履修者あるいは、それと同等以上の能力があると認められる者に限る
現代の教養	選択	Z5103A	作家と文学作品A	1－2	前期	2	2	
		Z5103B	作家と文学作品B	1－2	後期	2	2	
		Z51040	児童文学	1－2	前期	2	2	2023年度入学生用　2024年度まで開講
		Z51050	音楽鑑賞	1－2	後期	2	2	
		Z51060	美術鑑賞	1－2	前期	2	2	
		Z51070	日本の歴史	1－2	前期	2	2	2024年度まで開講
		Z51080	アジア史	1－2	前期	2	2	2024年度まで開講
		Z51090	ヨーロッパ史	1－2	後期	2	2	2024年度まで開講
		Z51100	産業史	1－2	後期	2	2	
		Z51110	心理学概論	1－2	前期	2	2	社会福祉主事任用資格指定科目
		Z51110	心理学概論	1－2	後期	2	2	社会福祉主事任用資格指定科目
		Z51120	社会心理学	1－2	前期	2	2	
		Z51130	こころの健康	1－2	前期	2	2	
		Z51130	こころの健康	1－2	後期	2	2	
		Z51140	食物と身体	1－2	後期	2	2	
		Z51150	くらしと医療	1－2	前期	2	2	2024年度まで開講
		Z51160	社会学概論	1－2	前期	2	2	社会福祉主事任用資格指定科目
		Z51170	経済学	1－2	前期	2	2	社会福祉主事任用資格指定科目
		Z5118A	現代社会と経済A	1－2	前期	2	2	
		Z5118B	現代社会と経済B	1－2	後期	2	2	
		Z51190	現代社会と政治	1－2	前期	2	2	
		Z51190	現代社会と政治	1－2	後期	2	2	
		Z51200	現代社会とメディア	1－2	後期	2	2	

FD・SD委員会規程 （'08.1.31、'10.10.7、'13.5.2、'15.2.19、'18.1.30、'22.4.26、'23.1.31、'24.5.28）

（設置）

第1条 神戸松蔭女子学院大学に「FD（Faculty Development）・SD（Staff Development）委員会」（以下「委員会」と記す。）を設置する。

（目的）

第2条 委員会は、授業内容、授業方法を改善し、教育内容を向上させるための全学的取り組みを推進することを目的とする。

2 委員会は、教育活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員に必要な知識及び技能を習得させるための研修の機会を設けるなど、教職員への全学的な取り組みを行うことを目的とする。

（任務）

第3条 教職員の研修に関することを審議し、実施する。

2 授業の改善に関することを審議し、実施する。

3 授業評価に関することを審議し、実施する。

4 教員表彰における特別表彰科目を推薦する。

5 教育業績評価委員会（小委員会）において、教育業績を審議し、評価する。

6 FD・SD委員会規程の改廃について審議する。

7 その他、委員会が必要と認める業務を行う。

（組織）

第4条 委員会は教務部所管の専門委員会とする。

2 委員会は以下の委員をもって組織する。

(1) 副学長　(2) 学長補佐（教務担当）　(3) 学部長

(4) 研究科長　(5) 各教育センター所長

(6) 学長が任命する教員6～8名　(7)総務課の長　(8) 学長が任命する職員1～2名

3 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

4 副学長は委員長として委員会を招集し、その議長となる。

5 学長は、必要に応じて委員会に出席することができる。

6 委員長は、必要な場合は委員会の承認のもとに委員以外の者の出席を求めることができる。

（規程の改廃）

第5条 この規程の改廃は、大学運営委員会の審議を経て学長が行う。

附則この規程は、2024年5月28日に改正し、2024年4月1日より施行する。

FD・SD委員会規程 （'08.1.31、'10.10.7、'13.5.2、'15.2.19、'18.1.30、'22.4.26、'23.1.31、'24.5.28）

（設置）

第1条 神戸松蔭女子学院大学に「FD（Faculty Development）・SD（Staff Development）委員会」（以下「委員会」と記す。）を設置する。

（目的）

第2条 委員会は、授業内容、授業方法を改善し、教育内容を向上させるための全学的取り組みを推進することを目的とする。

2 委員会は、教育活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員に必要な知識及び技能を習得させるための研修の機会を設けるなど、教職員への全学的な取り組みを行うことを目的とする。

（任務）

第3条 教職員の研修に関することを審議し、実施する。

2 授業の改善に関することを審議し、実施する。

3 授業評価に関することを審議し、実施する。

4 教員表彰における特別表彰科目を推薦する。

5 教育業績評価委員会（小委員会）において、教育業績を審議し、評価する。

6 FD・SD委員会規程の改廃について審議する。

7 その他、委員会が必要と認める業務を行う。

（組織）

第4条 委員会は教務部所管の専門委員会とする。

2 委員会は以下の委員をもって組織する。

(1) 副学長　(2) 学長補佐（教務担当）　(3) 学部長

(4) 研究科長　(5) 各教育センター所長

(6) 学長が任命する教員6～8名　(7)総務課の長　(8) 学長が任命する職員1～2名

3 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

4 副学長は委員長として委員会を招集し、その議長となる。

5 学長は、必要に応じて委員会に出席することができる。

6 委員長は、必要な場合は委員会の承認のもとに委員以外の者の出席を求めることができる。

（規程の改廃）

第5条 この規程の改廃は、大学運営委員会の審議を経て学長が行う。

附則この規程は、2024年5月28日に改正し、2024年4月1日より施行する。

大学等名	**神戸松蔭大学**	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和　7　年度

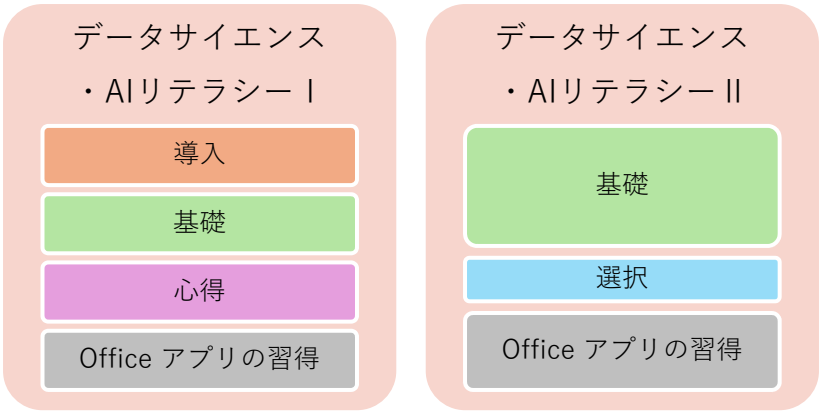
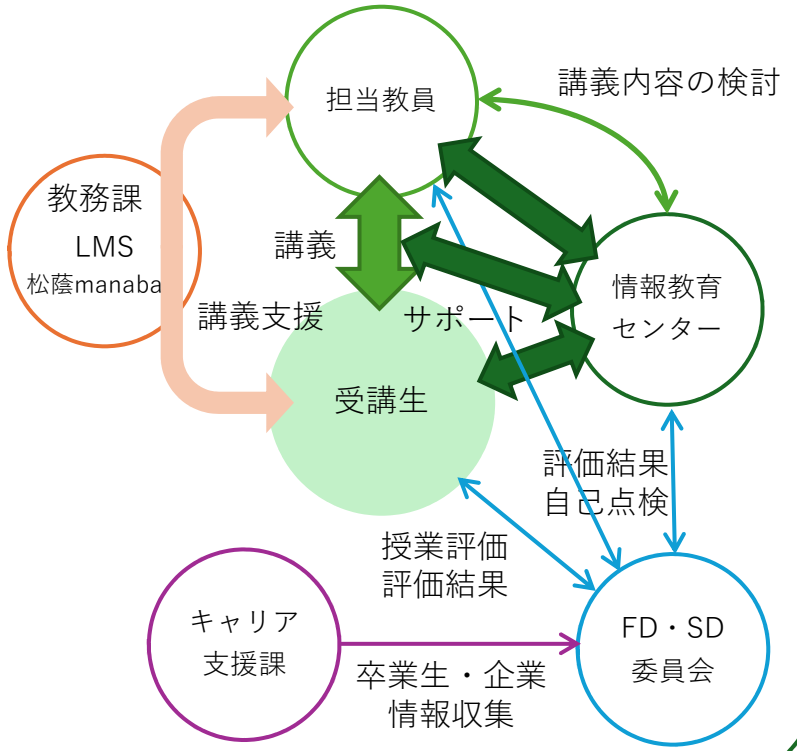
取組概要

【プログラムの目的】
本学の全学部の学生全員が、デジタル社会の基礎的な素養として求められる数理・データサイエンス・AIの知識を身に付けるための教育プログラムである

【修了要件】
全学共通科目情報系列の次の2科目を両方修得する
・データサイエンス・AIリテラシーⅠ（必修・2単位）
・データサイエンス・AIリテラシーⅡ（必修・2単位）

【身に付けられる能力】
・数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等で使いこなすことができる素養が主体的に身に付く
・数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法が身に付く
・学習した知識・技能を元に、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意思でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できる

【開講される科目の構成】



【実施体制】